

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査受検のための性産業従事者や事業者等に対する効果的な介入に向けた研究
(分担)研究報告書

トランスジェンダーSW（セックスワーカー）に対する効果的な介入方法
～トランスジェンダー・セックスワーカーの性の健康に関する啓発の実践と研究～

研究分担者：今村 顕史（東京都立駒込病院）
研究協力者：砂川 秀樹（明治学院大学国際平和研究所）
浅沼 智也（TRANS VOICE IN JAPAN）
荒木 順（特定非営利活動法人akta）
生島 嗣（特定非営利活動法人ぷれいす東京）
金子 典代（名古屋市立大学）、
塩野 徳史（大阪青山大学）
宮田りりい（SWASH/MASH大阪）
堅多 敦子（東京都立駒込病院）

研究要旨

本研究は、トランスジェンダーのセックスワーカー（以下、TG-SW）を対象に、以下を実現していくための環境づくりを目的としている。・HIV など性感染症に関する情報が入手できる ・新しい情報に基づき、性感染症に関する予防方法を自ら選択実行できる ・HIV など性感染症の可能性があったとき、安心して検査を受けられる ・HIV など性感染症に感染したときに、安心して治療につながるができる。

その目的達成に向けて、質問紙調査やインタビュー調査を通じて、TG-SW の置かれている状況を把握するとともに、啓発を進めていくための協力体制を構築しながら啓発介入を実施し、その全体の動きを一つのモデルケースとして提示する。

今年度は、啓発として、啓発用資材（冊子とリーフレット）を製作し、また、トランスジェンダー向けのイベントを開催するとともに、同様なイベント開催に協力した。調査としては、2021年2月17日～3月11日にWEB質問紙調査を実施し、昨年度に引き続きTG-SWにインタビューを行った。

質問紙調査からは、HIV 検査を受けられる場所に関する重要な情報や U=U、PrEP といった比較的新しい情報がトランスジェンダーに十分に行き渡っていないことが明らかになった。検査行動に関しては、セックスワーク経験者では、HIV 検査、性感染症検査の受検率が高かった。

インタビュー調査では、これまでの調査でも指摘してきたことではあるが、トランスジェンダーの多様性が改めて示されると同時に、性行為の内容や感染症予防、HIV を含めた性感染症の検査、接客における経験などには店の方針等が影響していることが確認された。

こうした状況の中、トランスジェンダー当事者が参加し啓発資材を製作したことの意義は大きい。だが、質問紙調査、インタビュー調査いずれからも、TG の多様性が示されている中、その多様性を意識したさらに様々な啓発資材が必要である。イベント開催は、こうした情報を広く流通させるために重要な役割を持つと思われるこれまで十分に啓発対象とされたなかった層に情報が行き届くには時間がかかることから、長く啓発がおこなわれていく体制が必要と言えらる。

A. 研究目的

本研究は、トランスジェンダーのセックスワーカー（以下、TG-SW）を対象に、以下を実現していくための環境づくりを目的として行っている。

- ・HIVなど性感染症に関する情報が入手できる
- ・新しい情報に基づき、性感染症に関する予防方法を自ら選択実行できる
- ・HIVなど性感染症の可能性があったとき、安心

して検査を受けられる

・HIVなど性感染症に感染したときに、安心して治療につながるができる

その目的達成に向けて、質問紙調査やインタビュー調査を通じて、TG-SW の置かれている状況を把握するとともに、啓発を進めていくための協力体制を構築しながら啓発介入を実施し、その全体の動きを一つのモデルケースとして提示する。

調査、啓発の対象としては、TG-SW を想定しているが、TG-SW は社会的にマイノリティ性が高いため、もっともアクセスが難しい層の一つである。よって、質問紙調査、啓発はトランスジェンダー全体を対象としている。それにより、まず、トランスジェンダーネットワークの中にいる TG-SW にリーチすることができる。また、TG-SW のみを対象として明示すると、社会的スティグマゆえに逆にその人たちが忌避する可能性もあり、TG-SW へのアプローチを意識しながら、トランスジェンダー対象として行っていく。

B. 研究手法

1. 啓発の実施

昨年度の 1. 啓発の立案 2. パネルディスカッション開催による共通認識の共有を踏まえた展開として、以下の啓発をおこなった。

(1) 資材製作

① 冊子

主に医療従事者や支援者を配布対象とする、WEB 質問紙調査の結果をまとめた冊子『トランスジェンダーとセクシュアルヘルス 2021 年オンライン調査から』(A4 カラー 1,000 部)を製作した。(資料として本文後に掲載)

② リーフレット

トランスジェンダー当事者向けのリーフレット『トランスジェンダーとセクシュアルヘルス Q&A』(A3 折りカラー 2,000 部)を製作した。(資料として本文後に掲載)

③ サイト構築

上記冊子とリーフレットに掲載した情報の流通を高めるためサイトを製作した。

(2) イベントの開催

① 主催

「トランスジェンダー、ノンバイナリー、X ジェンダー、そうかもしれない人、および関心のあるすべての人」を対象として、東京で開催されている「I Am トランス☆カフェ」の第 4 回目を「TRANS CAT'S EYE」と共同で主催した。なお、今年度内に二回開催する予定であったが、新型コロナ感染拡大のため一回のみとなった。(担当スタッフによる報告を資料として本文後に掲載している)

② 協力

LGBTQ コミュニティセンター「プライドハウス東京レガシー」が TOKYO AIDS WEEKS 2021 に参加し開催した「トランスジェンダーとセクシュアルヘルス(性の健康)」パネル展と、大阪のコミュニティセンター dista で「トランスジェンダーや多様な性についてわいわい話すサロン」として基本的に隔月(新型コロナ感染流行状況により休会あり)開催されている「kinky café」(主催: きんきトランス・ミーティング)に協力をを行い、連携をはかった。

2. WEB 質問紙調査の分析

2021 年 2 月 17 日～3 月 11 日に実施した WEB 質問紙調査(有効回答者数 276 名)の集計と分析を行う。

質問紙は、当事者、セクシャルマイノリティの HIV 感染予防に関する質問紙調査の経験が豊富な 5 名の研究者と協議を複数回行い策定した。基礎属性、HIV に関する基礎知識、HIV についての対話経験、HIV 検査行動、金銭の授受を伴う性産業従事経験、性行動や HIV 感染予防行動、PrEP の認知などを含む全 30 問である(質問紙は昨年度の報告書に掲載している)。対象者は、日本語が読むことができ、日本に居住する性別違和・トランスジェンダー当事者で調査サイトにアクセスしたものである。

調査プロジェクトの関わるメンバーにより、主に SNS を通じて呼びかける形で回答を募った。また回答協力者には先着 200 名に対し回答協力謝礼をメールで配信した。

3. TG の性産業関係者のインタビュー調査

主な質問項目と手法は昨年度と変更はなく、下記に掲げた通りである。インタビュー開始前に、答えたくない質問には答える必要がないこと、途中で中断しても良いことなどインタビューに関する基本的な権利について伝えている。

▼年齢 ▼居住地(都道府県) ▼出身地 ▼自身の性自認にまつわるアイデンティティや呼び名について ▼性的指向について ▼ジェンダー移行に関するライフヒストリー ▼自身の性産業とのかかわり/働き方(経緯、現場での性行為の内容とその決定のされ方、性行為内容決定への自身の意志、コンドーム使用、予防の様子、HIV や STI 検査の経験) ▼医療機関への受診について(STI が気になったときの診察、他の病気等、体調が悪い時の受診の経験やハードル) ▼他の SW との交流、関係、TG-SW が働く他の性産業に関して ▼性産業の現場への意見(自分が従事している店舗や業界全体で必要と思うこと、HIV に関連した施策で望むこと) ▼プライベートな性行為について ▼PrEP に関しての知識

インタビュー手法としては、自由面接に近い形をとり、それぞれのセックスワークの経験や、性別違和の程度や性別移行の違いなどに応じて、問い方、質問の順序を変更し、一問一答のような質疑応答になることを避けた。これは、流れを重視し、ラポール(信頼関係)の形成と、単発のインタビューで終了しない関係づくりを意識したことによる。

インタビューは承諾を得た上で IC レコーダーに録音し、文字起こしを行った。なお、インタビュー協力者のリクルートは、知人を介しての依頼、SNS や出会い系募集の掲示板を通じて、個別にメールで

依頼文を送る形でおこなった。

C.研究結果

1.啓発の実施

(1) 資材製作

①冊子

医療従事者や支援者に、トランスジェンダーの多様性とセクシュアルヘルスに関して置かれている状況の理解を促進することを目的として、WEB 質問紙調査の分析の中から、属性の他、ジェンダー/セクシュアリティ、HIV 検査、エイズの知識、HIV 以外の性感染症検査、性感染症の罹患歴・受診、性別違和感と検査や受診の関係、性交渉、金銭授受を伴う性交渉、性産業の従事経験の項目に分けて掲載した。また、分析者のコメントのほか、5 人の当事者の声を掲載した。内容は、集計分析担当者とトランスジェンダー当事者で検討し案を作成した後、HIV/AIDS 問題に関わってきた他の関係者が検討に加わり、最終版を製作した。

②リーフレット

トランスジェンダー当事者にセクシュアルヘルスに関する基本的な情報を伝えるため、より安全なセックス、HIV/AIDS、性感染症に関する基礎知識、相談先を記載した。また、詳細な情報を得たい場合にインターネット上で確認できるよう、それぞれのテーマについての情報が取得できるサイトの QR コードも掲載した。製作プロセスとしては、HIV/AIDS に関する活動、研究経験の長いものが素案を作り、トランスジェンダー当事者ら 3 人が参加したワーキンググループで検討を重ねる形をとった。

(2) イベントの開催

①主催「I Am トランス☆カフェ」

本研究班が「TRANS CAT'S EYE」と共同して 1 月 23 日に主催した第 4 回には、15 名の来場者とスタッフ 7 名、合わせて 22 名の参加があった。場所は、新宿二丁目のゲイミックスバー「DRAGON MEN」を使用した。パフォーマンスのほか、HIV を

めぐるテーマとして、HIV の受検経験、HIV の対話経験・HIV の身近さ、U=U、検査や治療の受けづらさ、課題等に関するトークが行われた。トークには手話通訳と英語通訳が入り、ろう者の LGBTQ+も 5 名参加した。なお、具体的な開催内容として、イベント担当者による報告を本文後に挙げている。

②協力

・「トランスジェンダーとセクシュアルヘルス(性の健康)」(主催:プライドハウス東京レガシー)

同イベントは、LGBTQ+のコミュニティセンター「プライドハウス東京レガシー」でのパネル展とオンラインビデオの製作から構成されたものである。そのうち、パネル展のパネル製作にあたり、本研究班でおこなった WEB 質問紙調査のデータを提供した。

・「kinky café」(主催:きんきトランス・ミーティング)

開催内容 2021 年 7 月 10 日:

今後、カフェで行いたいことなどについて話し合い、8 月 15 日:映画「I Am Here - 私たちはともに生きている-」上映会、9 月 11 日:おすすめの漫画やドラマなどについて話し合い、11 月 13 日:おすすめの音楽などについて話し合い、12 月 30 日:kinky cafe の night 版としてオールナイト開催。

2. WEB 質問紙調査の集計

有効回答者数は、276 名となった。以下、質問内容により一部、問いの並びを変えている。

【回答者の基本属性】

問 1 年代

	度数	%
10 代	14	5.1
20 代	85	30.8
30 代	100	36.2
40 代	48	17.4
50 代	21	7.6
60 代	7	2.5

その他	1	0.4
合計	276	100.0

問 2 居住地域

	度数	%
北海道・東北	23	8.3
関東・甲信越	128	46.4
東海	19	6.9
北陸	3	1.1
近畿	64	23.2
中国・四国	12	4.3
九州	24	8.7
国外	3	1.1
合計	276	100.0

問 3 同居の有無

	度数	%
はい(一人暮らし)	125	45.3
いいえ	151	54.7
合計	276	100.0

問 4 職業(雇用形態)

	度数	%
常勤	110	39.9
非正規・パート・アルバイト・経営者	83	30.1
学生・無職	64	23.2
その他	19	6.9
合計	276	100.0

問 5 年収

	度数	%
200 万円未満	96	34.8
200-400 万円未満	94	34.1
400 万円以上	74	26.8
わからない	12	4.3
合計	276	100.0

問 6 最終学歴

	度数	%
中学校	8	2.9
高等学校	75	27.2
専門学校	42	15.2
短大・高専	5	1.8
大学	114	41.3
大学院	27	9.8
その他	5	1.8
合計	276	100.0

問 7 ジェンダー

	度数	%
MtF/トランス女性	51	18.5
FtM/トランス男性	161	58.3
FtX	30	10.9
MtX	18	6.5
その他	16	5.8
合計	276	100.0

問 8 性的指向

	度数	%
ゲイ (男性同性愛者)	22	8.0
レズビアン (女性同性愛者)	11	4.0
バイセクシュアル (両性愛者)	31	11.2
パンセクシュアル (全性愛者)	48	17.4
A セクシュアル (無性愛者)	13	4.7
ヘテロセクシュアル (異性愛者)	113	40.9
わからない	13	4.7
その他	25	9.1
合計	276	100.0

問 9 出生時の性別と現在の性別

	度数	%
違和感を覚えていて、主に違う性別を使っている	181	65.6
違和感を覚えているが、主にそのままの性別を使っている	65	23.6
その他	30	10.9
合計	276	100.0

問 9-1 違和感を覚えるようになった年齢

N = 246 (問 9 で「違和感を覚えている」の回答者)

【平均 9.16 歳】

問 10 治療や性別変更等の経験

	度数	%
ホルモン療法	190	68.8
GID/GD 診断のための精神科(ジェンダークリニック含む)への通院	182	65.9
戸籍名を変更した	126	45.7
法律(戸籍)上の性別を変更した	89	32.2
希望するすべての手術を実施した	76	27.5
部分的に手術をしたが、希望するすべての手術までは実施していない	56	20.3
SRS(性別適合手術)を検討している	49	17.8
(自由記述により)上記にあたるもの何もしない人	28	10.1

【HIV の知識・情報】

問 11 HIV に関する知識の正答率

	度数	%
HIV 感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった	219	79.3
HIV 感染症はコンドームを性行為時に使用することで予防できる	209	75.7
HIV に感染していても、適切な治療を行えば、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができる	205	74.3
最近、日本での HIV の感染経路は性行為によるものが最も多い	181	65.6
通常 HIV 抗体検査では、HIV に感染してから2~3か月経過しないと感染しているかわからない	106	38.4
性感染症に感染していると、HIV に感染しやすくなる	91	33.0

問 14 U=U 認知

	度数	%
よく知っている・少し知っている	87	31.5
あまり知らない	60	21.7

全く知らない	129	46.7
合計	276	100.0

問 25 PrEP 認知

	度数	%
とてもよく知っている	21	7.6
具体的には知らないが、聞いたことはある	71	25.7
まったく知らなかった	182	65.9
すでに使用している	2	0.7
合計	276	100.0

問 13 友達に HIV 陽性者がいるか

	度数	%
いる・いると思う	103	37.3
いない・いないと思う	93	33.7
わからない	80	29.0
合計	276	100.0

問 12 HIV やエイズ、性感染症について話した経験 (過去 6 ヶ月)

	度数	%
友達や知り合いと	52	18.8
恋人や大切な人と	33	12.0
NGO、支援団体の人と	27	9.8
過去 6 か月間にセックスした相手と	26	9.4
通院している医師、看護師など医療関係者と	16	5.8
両親や兄弟姉妹と	9	3.3
保健所の保健師と	7	2.5

問 15 トランスジェンダーのために開催されているイベントへの参加

	度数 ()内は%		
	行った ことが ある	知って いるが 行った ことは ない	知らな い
I Am トランス☆カフェ	9 (3.3)	30 (10.9)	237 (85.9)
kinky cafe	7 (2.5)	33 (12.0)	236 (85.5)
トランス向け クラブイベント	40 (14.5)	97 (35.1)	139 (50.4)
HIV の予 防のことを しているコ ミュニティ センター	51 (18.5)	67 (24.3)	158 (57.2)

【性交渉経験・コンドーム使用】

問 16 性交渉経験 (生涯)

	度数	%
はい (=有)	235	85.1
いいえ (=無)	41	14.9
合計	276	100.0

性交渉(セックス)については、「あなたが思う『性交渉(セックス)として判断するもの』」として定義。他の質問も同様。

問 16-1 初めて性交渉をおこなった年

N = 235(問 16「はい」回答者)

【平均 18.81 歳】

問 16-2 性交渉経験(過去 6 ヶ月)

N = 235(問 16「はい」回答者)

	度数	%
ある	124	52.8
ない	111	47.2
合計	235	100.0

問 16-2-1 性交渉相手の人数(過去 6 ヶ月)

N = 124(問 16-2「ある」回答者)

	度数	%
1 人	80	64.5
2 人	23	18.5
3 人	8	6.5
4 人	3	2.4
5 人	3	2.4
6 人以上	7	5.6
合計	124	100.0

問 16-2-2 性交渉時の立場(複数回答)

N = 124(問 16-2「ある」回答者)

	度数	%
タチ(ペニス(ペニスバンド含む)をヴァギナ・アナルに挿入する側)	33	26.6
ウケ(ペニス(ペニスバンド含む)をヴァギナ・アナルに挿入される側)	38	30.6
リバ(タチとウケの両方)	23	18.5
ペニスバンド等による挿入行為	11	8.9
オーラルセックスをした	52	41.9
挿入行為はなかった	28	22.6

その他(度数)...手指を使った挿入(3)、ネットを介した性行為(1)、SM(1)

問 16-2-3 コンドーム使用(過去 6 ヶ月)

N = 124(問 16-2「ある」回答者)

	度数	%
必ず使った	28	22.6
使うことが多かった	11	8.9
五分五分の割合で使った	4	3.2
使わないことが多かった	12	9.7
全く使わなかった	33	26.6
挿入行為はなかった	36	29.0
合計	124	100.0

問 16-2-4 性交渉の相手との出会いの場所

(過去 6 ヶ月:複数回答)

N = 124(問 16-2「ある」回答者)

	度数	%
職場・学校	43	34.7
掲示板	22	17.7
Twitter	17	13.7
スマホアプリ	17	13.7
飲み屋	7	5.6
バー	6	4.8
ハッテン場	5	4

その他(度数/%)...「パートナー」「妻」「夫」「配偶者」「嫁」「婚姻関係にある」=特定の関係と終われる回答(11/8.9)、「LGBT 交流会」「イベント」「オフ会」「サークル」=イベント(4/3.2)、「知人の紹介」「知人の知人」「友だちからの紹介」「友達の家」=友人知人関係(4/3.2)、「ウリ専」「風俗」=性風俗(2/1.6)

問 16-2-5 性交渉の相手との関係

(過去 6 ヶ月:複数回答)

N = 124(問 16-2「ある」回答者)

	度数	%
恋人	72	58.1
セフレ	26	21.0
お客	6	4.8
その場限りの相手	28	22.6

問 16-2-6 セックスに伴う薬物使用

(過去 6 ヶ月:複数回答)

	度数	%
アルコール(酒)	39	31.5
ぼっき薬(バイアグラなど)	2	1.6
脱法ドラッグ	1	0.8
処方薬	3	2.4
いずれも使用していない	83	66.9

以下の選択肢は、回答者 0 であった...「静脈注射のドラッグ」「ラッシュ」「大麻/マリファナ」「覚醒剤」「MDMA」「そのほかの違法薬物」「咳止め(咳症状を抑える目的ではなく)」

問 19 過去 6 ヶ月を振り返り自分が HIV に感染している可能性

	度数	%
全く可能性はなかった	184	66.7
あまり可能性はなかった	53	19.2
どちらとも言えない	7	2.5
少し可能性があった	12	4.3
かなり可能性があった	4	1.4
HIV 陽性者である(すでに HIV に感染している)	1	0.4
わからない	15	5.4
合計	276	100.0

【HIV 検査】

問 20 HIV 検査受検経験(生涯)

	度数	%
ある	91	33.0
ない	185	67.0
合計	276	100.0

問 20-1 HIV 検査受検経験(過去 1 年)

N = 91(問 20「ある」回答者)

	度数	%
ある	29	31.9
ない	61	67.0
1 年以上前に HIV 陽性と確認している	1	1.1
合計	91	100.0

問 20-1 検査を受けていない理由

N = 185(問 20「ない」回答者)

	度数	%
感染している可能性がないから	108	58.4
検査の機会がなかったから	65	35.1
ジェンダー/セクシュアリティを伝えるのが面倒である	26	14.1
検査場所を知らない	25	13.5
お金がかかるから	14	7.6
もし感染が分かってもどこに行ったらよいか分からない	17	9.2
結果を知るのが怖いから	7	3.8

もし感染が分かっても医療機関に行くのがいやだった	3	1.6
感染しているかどうかをあいまいにしておきたい	1	0.5

問 20-1 受けた HIV 検査の場所

(過去 1 年:複数回答)

N = 91(問 20「ある」回答者)

	度数	%
病院	10	34.5
保健所の即日検査	9	31.0
クリニック・診療所	8	27.6
特設の HIV 検査施設(南新宿検査・相談室など)	4	13.8
郵送検査	3	10.3
保健所の夜間検査	1	3.4
保健所の即日・夜間検査以外の検査	0	0.0

問 20-2 定期的に HIV 検査を受けているか

N = 91(問 20「ある」回答者)

	度数	%
定期的に受けていない	65	71.4
3か月に1回以上は受けている	3	3.3
6か月に1回は受けている	2	2.2
1年に1回は受けている	4	4.4
感染リスクのある行為の後に受けている	10	11.0
その他	7	7.7
合計	91	100.0

問 22 通院している病院の医師から HIV 検査を勧められた経験

	度数	%
はい	10	3.6
いいえ	266	96.4
合計	276	100.0

問 23 性別違和と HIV 検査

(違和感を覚えるようになってから、HIV 検査に関して病院、保健所が使いにくくなったことがあるか)

N = 246(「違和感を覚えたことはない」選択者を除く)

	度数	%
ある	43	15.6
ない	203	73.6
違和感を覚えたことはない	30	10.9
合計	276	100.0

【性感染症】

問 21 性感染症検査受検(生涯)

	度数	%
はい	67	24.3
合計	276	100.0

問 26 性感染症罹患経験

	度数	%
ある	31	11.2
ない	245	88.8
合計	276	100.0

問 26-1 罹患経験のある性感染症

N = 31(問 26「はい」回答者)

	度数	%
クラミジア	15	48.4
性器ヘルペス	6	19.4
淋病	5	16.1
尖圭コンジローマ	4	12.9
梅毒	3	9.7

HIV 感染症	1	3.2
A 型肝炎	0	0.0
B 型肝炎	0	0.0
C 型肝炎	0	0.0
赤痢アメーバ	0	0.0

問 26-2 罹患した際に病院に行ったか

N = 31(問 26「はい」回答者)

	度数	%
行った	29	93.5
行きたかったが行けなかった	2	6.5
合計	31	100.0

問 26-2 行かなかった理由(複数選択)

N = 2

	度数
お金がなかった	1
ジェンダー/セクシャリティ開示が嫌だった	1
医療者に説明するのが面倒だった	1
医療機関で嫌な思いをしたことがあるから	1
怖かったから	0

問 26-2-1 医療者の対応

	度数	%
とても良かった	11	37.9
まあよかった	10	34.5
あまりよくなかった	5	17.2
全くよくなかった	1	3.4
覚えていない	1	3.4
その他	1	3.4
合計	29	100.0

問 24 性別違和と性感染症診察

(違和感を覚えるようになってから、性感染症の心配があったときに病院、クリニックの診察を受けにくくなったことがあるか)

N = 251 (「違和感を覚えたことはない」選択者を除く)

	度数	%
ある	73	29.1
ない	178	70.9
合計	251	100.0

	度数	%
デリバリー (派遣型)ヘルス	10	55.6
店舗型ヘルス	7	38.9
個人売春	6	33.3
売り専	5	27.8
ソーブランド	2	11.1
ピンクサロン	1	5.6

その他...「アダルト」(1)

【セックスワーク】

問 18 お金をもらって性交渉をした経験

	度数	%
ある	39	14.1
ない	237	85.9
合計	276	100.0

問 17 お金を払って性交渉をした経験

	度数	%
ある	30	10.9
ない	246	89.1
合計	276	100.0

問 18-1 一番最近のお金をもらった性交渉

N = 39 (問 18「ある」回答者)

	度数	%
6か月以内	8	20.5
6か月から1年の間	1	2.6
1年から3年の間	4	10.3
3年から5年の間	4	10.3
5年以上前	22	56.4
合計	39	100.0

3. TGの性産業関係者のインタビュー調査

セックス ワーカー (表記:tw)	L: 女性が主に働くヘルス店に勤務するトランス女性ワーカー
	M: マッサージ店に勤務するトランス女性ワーカー
	N: 女性が働くヘルス店に勤務する中性アイデンティティ・ワーカー
	K: ニューハーフヘルス店に勤務していた女装ワーカー(フォローアップインタビュー)

問 27 性風俗系の仕事の経験

	度数	%
ある	18	6.5
ない	258	93.5
合計	276	100.0

問 27-1 経験した性風俗の場所・方法

N = 18 (問 27「ある」回答者:複数回答)

インタビューのやりとりは、可能な限り忠実に引用している。ただし、文脈上重要でないとされた言いよどみ、繰り返しは省いた。また、本人のプライバシー保護の観点から、固有名詞の変更、省略、断片化を行っている。なお、()内は調査者の言葉、[]調査者による補完である。///は長い省略部分があることを示している。

tw-L

<立場>

40代・トランス女性／女性が主に働くヘルス店に勤務。

<経歴等>

2年ちょっと前に、現在勤務しているところで働き始めたのが、最初の性風俗勤務経験。昼間はIT系の大きな会社で、女性として勤務している。

<インタビュー内容(抜粋)>

店のタイプ(現在)

(仕事はニューハーフという名前がついたところで働いている?)いえ、一般の女性の、女の子のほうです。(じゃあ、大部分女性ということですか?)ほとんどそうです。(何人くらい働いていますか?)何人...数百人いるところで。五百人くらい。(他にもいわゆるニューハーフの方いらっしゃる?)数人はいますね。

性別移行

移行としては、現時点だと、去年、ホルモン治療を始めたのは5年くらい前。去年睾丸をとって、で、この先一応、この仕事しながらお金をためて、で、目標は、すぐにでもなんですけど、実際には、適合手術を受けたいなと思っています。(じゃあ、適合手術を受けて、戸籍の性別も変える予定でいらっしゃる?)はい。

セックスワークのきっかけ

(性風俗で働くようになったのはいつくらい?)2年ちょっと前(なんかきっかけがあったんですか。)会社の仕事をしながら、いろいろ、その残業代で手術代を貯めたいなって、やってたんですけど//残業がすごい減っちゃって//短期でなんか手術代だけでもかせげるような仕事ないかなと思って//

客層

(お客さん皆さん男性?)はい、いや、女性も多い

んです、実は。(女性も利用できる場所なんだ?)そうです。たぶん、女性がここまで多いのは私以外...私だけかもしれないですけど。(どれくらいの割合ですか?)先々月は、もう女性の方が多かったです。//同業の子が多いんで。//ニューハーフで、女の子のお店で売れていて、どういうことやってるのかなというので。会いにきてくれて。

性行為内容と性感染症予防

(女性相手だと挿入行為あったりするということですか?)いやー、挿入行為はないです。そもそもが、もともと勃ないんで。[男性客とは]入れられるほうが、メインです。(男性のお客さんだと、どれくらいの割合で、その挿入行為はある感じですか?)うーん、8割くらいですかね。(そのとき、コンドームの使用はどんな感じですか?)一応、お店自体では、生も、えっとオプションとしてあって、一応最初につけようとするのはつけようとするんですけど、生のほうがいいって、そうじゃないといけない[=射精できない]というお客さんに対しては、生でやることもあります。(だいたいどれくらいの方がそれを)ゴムつけるほうが少ないかもしれないですね。

オプション自体は、オプション表みたいの、それでできるものは最初から、これこれこれって、最初から自分でお店で話したのが乗ってて、一応できますよって言ってるって基本的にはやるので、生もゴムつきもあって。なるべくならゴムつきのほうがね、安全ですよ、って話はお客さんともして、でも、やっぱり生がいいって人は、いるんで。(じゃあ、女性も生オプションがある感じですか?)女性も、そうです。女性もお尻にかんしては、ね。

性感染症の不安

(生でされるということ、感染症とか心配になったりすることあります?)心配は心配ですけど。一応、なるべくならやらないほうがいいんですけど。(自分としてはどっちが楽ですか?)楽、楽かどうかという意味ではやっぱり生のほうが、いってくださる方が多いので(早くいってくれたほうが楽?)そうです、そうです、

仕事上は、ね。まあ、あの、なるべくそのあと洗う、洗う時間をとって、長めにとって、ようにはしてて。

性感染症の検査

(今まで性感染症で不安になって検査を受けられたことは)毎月お店のきまりでやっています。(店で、それは何が入ってます?)えーっと8種類だから、なんだろう、HIV...(じゃあ、ほとんど性感染症全部みたいな?)そうです、そうです。(お金は?)個人負担です。(いくらぐらい?)お店のだからたぶん安いんだと思うんですけど、8千円ちょっとです。(その結果というのは、自分が、自分だけが確認するんですか。お店の人が?)お店の人も確認します。ただ、お店でやってないのが、お尻の検査っていうのをやってくれてなくて、だから、淋病とクラミジアに関しては病院に個人的に行ってます。

医療機関へのアクセス

(病院とかクリニックに行かれるときも女性で)まあ、そうですね。保健所とか、ね、病院に行ったときは、性別は男性ですけど。(それで行きづらかったりとかしたことは、ありませんか?)最近、病院は、名前で呼ばなくなりましたね。苗字だけで呼んで。//調剤薬局が名前で呼ばれて、フルネームで呼ばれて。//この年なんでもう人間ドックとか行ったりしなきゃいけないんですけど、着替えたりするのも、全部あの、身障者用のトイレとか使っていていいことで、そこに案内されて。(保険証と生活の性別が違うということを理解して?)ちゃんとした病院は、結構そういうところ進んでると思います。(じゃあ、そんなに病院で嫌な思いをされたこと)ないですね。

性風俗業界に望むこと

たまにお客さんで、お客さん自身も病院で検査された、その結果を持って来る人もいますね。そこまでしるとは言わないけど、なんかもうちょっとね、女の子以外でも、そういう検査ができればいいのかなと思います。

tw-M

<立場>

30代・トランス女性/マッサージ店勤務

<経歴等>

20代の頃、最初は出会い系サイトを通じて、個人でセックスワークをやっていた(女装をして)。その後、「男の娘(おとこのこ)」としてニューハーフヘルスで働き始め、今は、メンズエステ店で働いている。

<インタビュー内容(抜粋)>

セックスワークのきっかけ

(「男の娘(おとこのこ)」としての仕事を...どういう風に始められたんですか?)普通に、最初は、地元で//サイトがあって、やっぱりお金が欲しかったので、ホテルとかいって、Hしてお金をもらいたいなことをしていてちょっと怖い目にあって、ちょっとカメラでとられたりして、(あー、それは怖いですね)、それで、もうちょっとやめようと思って、探したら、東京にそういういくつかヘルスがあったので、することになりました。

性行為内容①

(その頃、性行為としてあるのはどういう感じでしたか?)たぶん、全部していたと思います。(受けるほう?)はい、受けるほうです。(そのときに、性感染症の心配とか予防とか、どういう感じでしたか?)当時はあまり考えてなかったですね。お店に入ってからの方が、熱が、なんか結構出ることが多くなって、喉とか結構やられてたんだと思うんですけど、それで、結構休んだりしてましたね、最初のとき。(個人で、何人か相手していたときは、予防はしてなかったけど、何も起こらなかった?という感じですか?)そうですね、はい。(そのときはアナルセックスもコンドームなしで?)いや、つけてます。

店のタイプ(過去)

(お店を探してということで、それは何で探して?)ネットで。(男の娘の専門のお店って感じですか?)

いや、両方です。ニューハーフの人もいてという感じで。(男の娘と、いわゆるニューハーフの人と、どこで境目がつけられるんですか?) まあ、ホルモン治療をしてるかしてないかが一番大きいですね。

[勤務経験について]ヘルス自体は、もう何店舗...あと出稼ぎって言って、地方とかに結構回ったりとか、そういうのが結構、五年くらい働いていました。(最初に働き始めてのころから、別のところに移ろうと思ったのはどうしてですか?)条件がよかったので。ニューハーフ専門じゃなくて、女の子のいるお店で。

性行為内容②

(ヘルスで働いているときはアナル、両方もあるわけですよ、両方というのは結構、コンドームは必ず使えたという感じですか?)私の場合は、はい。(お客さんから、なくて、と求められること)中にはいらっしやいましたけど、無理ですと断ってました。(お店自体は、ちゃんと使ってください、というのを出している?)そうです。はい。でも、なかにはお店の中でなんていうんだろう、いろんな人に入ってるお客さんで、他のキャストさんは、あの一、生でやってたから、生でやってくれない?って言われたこともあったんで。ちょっと引きましたけど。(オーラルセックス自体は、コンドームなしで?)そうですね。

性別移行

(ご自身がホルモン治療を始めたのは、それからどれくらいですか?)結構すぐでしたね。[お店で働くようになってから]半年くらいでもう。//(そのホルモン治療をされるクリニックはどうやって探されたんですか)そのお店で働いている子に教えてもらって。(結構お互い情報交換したり?)そうです、いろいろ教えてもらって。東京出てくるまで、全然そんな知識もなかったの。

(すいません、どれくらい性別移行具合いか聞いてもいいですか?手術に関しては)私の場合は、何年前だっけ、もう五年前に、睾丸の摘出はしました。

(手術を受けようと思ったきっかけというか、何かありました?)やっぱり早いうちにやっておいたほうが

いいのと思ったのと、全部するにはやっぱり勇気がいるし、お金もかかるので、うーん、少しでも、ホルモン治療の負担を減らしたかったというのがあるので、今は、2週間に一回注射打ちに行ってるんですけど。

呼称について

(自分の呼び名って、性別の状態ってどういう風に...やっぱりニューハーフがしっくりくる感じですか?)

あんまり自分で意識してなくて、まあ、店ではニューハーフなので、ニューハーフ...。(トランスジェンダーって、自分にはしっくりこない?)たぶん、LGBTの中のどれか、なにかと言えばトランスジェンダーだと思うんですけど、たぶん、それだったら、たぶんもう全部手術してると思うんですよね。//自分がその、女性だと思いきると、なんていうんだろう、周りから、なんかそう言われたときに、結構ショックを受けるというか、あの、うん、自分ニューハーフと思っているほうが楽、気持ち的に。//自分じゃなくて周りから思われて、どうなのかな、って感じですね。

(今後、手術で完全に移行しようみたいな感じはあるんですか?)私の場合は、その、パートナー次第ですね。自分じゃなくて。やっぱり、結婚とか考えたときに、たぶん、一人の力じゃ、たぶん、耐えられないと思うので、金銭面とか、その後の生活にしても。

店のタイプ(現在)

今は、メンズエステ。(そこではどういうサービスを)そこではオイルマッサージで、鼠蹊部を中心に、ちょっと少しなエッチな感じではあるんですけど、そういうヘルスとか、そういう感じではないです。(そこでは、性行為らしい性行為はない?)しないです。

(その仕事に移行したきっかけというのはあるんですか?)やっぱり、自分の体力的な面と、そういうお尻とか、ヘルスとかで使うのがしんどくなったりとか、//やっぱり病気がこわいというのもあって、で、もともとマッサージの仕事に興味があって、女性の専門のお店で講習受けて勉強してたんで、それを活かして、今の店ができたので、オープニングから働いています。

性感染症検査

(性感染症の検査自体はお店がやる感じで？自分で？)もう自分で受けるという感じですね。(検査項目というのはどういうもので？)血液検査で、HIVとか、梅毒とか、あと...クラミジア...結構いろいろ。(そこで受けるの、なんか受けづらかったりとかは？)場所が場所で、新宿なので。そういう風俗で働いている人がやっぱり多いので。別にそんなに。気にはならない...

(結構お金もかかる？)一回、1万から2万...2万はしなかったけど、全部やると2万かかるかかからないくらい。

(お店側がもうちょっとこうしてくれればいいのに、とかありますか)そうですね。お店でちょっとはお店で負担していただけたら、もっとみんな行くんじゃないかなあ、と思いますね。お店は一応、よびかけはするんですか？)お店次第だと思います。お店でそういう検査キットを用意して郵送で送っていたお店もありますし。ちゃんと出してくれるお店もありましたし。ニューハーフのお店は結構出してくれなかったですね。(女性がいるところのほうが、そういうの、比較的良好やっている?)そんなには、あの長くいたことなかったですけど、まあ、出してくれたりとかしてくれたところとかありました。

(性感染症の知識どうですかね。ヘルスに働いている人たちの状況とか)ヘルスで働いている感じの方達のほうが、意外とちゃんとそういう検査とか受けているかもしれないですね。

tw-N

<立場>

30代・出生時に振り分けられた性別は女性だが性自認は中性／ヘルス店勤務

<経歴等>

最初、様々なジェンダーの人が働いているヘルス店で働き始め、次に「激安店」のヘルスで働くように。現在は、女性が働く「高級店」のヘルスで働いている。

<インタビュー内容(抜粋)>

セックスワークのきっかけ

(自分でセックスワークを始めた、というのはいつですか)28、です。(それはどういう流れというか)大学出て一年働いて、そのあと大学院に行ったんですけど//自分がLGBTQであるということから発信していくということで、美術って思ってたんですよ。ずっと思っていて、大学を出てからもずっとそれを考えながらやってたんですけど、美術の世界の、ジェンダー規範が、ものすごくあるというのにあらためて気づかされ、ここでやると自分、窮屈すぎるとストレスしかたまらないなって思ったんですよ。//

レズビアン風俗とか知ったんですよ、あるときに、で、一回、そこで働こうと思ったんですよ。性に関して何か悩んでる人とか、なんか、考えてること共有したい人とか、そういう人の役に立ちたかったんですよ、自分が。//美術でやると、そこにたどりつけないなと思っていて、で、レズビアン風俗というのを知って、あ、こういう仕事があるんだ、って思って、これだったら、自分の考えていることできるじゃん、と思っていたんですが、でも、バイセクシャルなので、いや、レズビアン風俗って女性しか相手にできないじゃん、ってなったんですよ。でも、性ってみんなあるから、女性だけに限っちゃうって、自分違うんじゃないかと思ったんですよ。

店のタイプ(過去)

[続]で、そんなときに、一番初めに勤めた、今は無いんですけど、店が、FtMとかおなべとかボーイッシュな人募集、って、デートコースがある、でも、お客さんは女性も男性も関係ないっていうお店が、求人見つけて、で、そこが、あ、ここならってって、応募して、それが初めて。

(そこではどれくらい勤めて)そこ、一年くらいですかね。(そこでのお客様の、割合というか、どんな感じですか)男性女性、おんなじくらいで。ひとりよく使ってくれる方がいて、その方は、クイアな方で、ご自身は女装されて。アセクシャルというのを自覚してるけど、確かめたいという女性の方とか。あと普通に、

なんかボーイッシュな子が好きという方とか。あとは、バイセクシャルの人かな。

性行為内容

(性行為の内容自体、例えば男性だと)基本的なデリバリーヘルス自体が、挿入はなし、本番はなしなので、それ以外のことは、まあ、だいたい。(オーラルセックスとか、いわゆるペッティング?)ペッティングですね。肛門性交はしない?しないです。

(でも、求めてくる人いました?)あんまりいなかったですね。あの、受け身、男性のお客さんでも、受け身の方というか、責めて欲しいという方とか、あと、は、なんだろう。前立腺をやって欲しいみたいな方とか、いろんな方。(じゃあ、そんなに性的に何か嫌なことを強制されるとかいうことはなくて)そうですね。そのお店ではなかったですね。//

その次に入ったお店が、自分のこういうその性自認とか含め、人間なので、どこでもいいから採用してもらえるところにいろいろ思ったんですよ、で、そこが激安店だったんですね、//そこが結構、その、きついついいうか、その、オーラルセックスじゃなくて、ほんちゃんみたいなのを求めてくるお客さん、めちゃくちゃ多かったですし。

(お店によってだいぶ違うんだ)全然違いますね。めちゃくちゃ多かったですし、めちゃくちゃほとんど多かったですし、それから、上から視線というか、うん、上から視線のお客さん、めちゃくちゃ多かったですし、//実際プレイ、プレイというか仕事でも、なんだろうな、うん、こわかったなー、いろいろ。無理やりこう、突っ込まれそうになったりとか。

(そういうときはどういう風に対応する感じで)最初は、そう、雰囲気みたいながあるから、だめですよー、みたいな、ですよー、ってやってて、それが、それでもいいじゃん、いいじゃんみたいに言ってくる人には、こう真顔になってというか、素になるっていうか、いや、マジでやめてください、みたいな。で、それでも言ってくる人には、じゃあ、お店に電話しますね、って言って、そうするとだいたい、冗談みたいな感じで言われるんで、出禁にしますね、ってグサって言っちゃ。

性感染症予防

(オーラルセックスでの、予防というか、性感染症予防とかはどんな感じでした?)まずは、最初に、どのデリヘルさんでもそうだと思うんですけど、手洗い、うがいをして、イソジンうがいですかね、シャワー浴びるときに、グリスっていう専用の殺菌用洗剤があるんですよ、お客様の性器をきれいにすると洗剤とかあって、それはお店から渡されるんですけど、で、お店から渡されるものが基本的に、グリスと、ローションとあとイソジン、この三つが基本的に渡されるんで、その最初のお店と次のお店と、今のお店と三つ働いたことがあって、どのお店もそれは一緒です。で、最初にシャワーで、お客さまの体洗って、そのグリスで、その性器の部分特にきれいにして、そのときに、なんだろう、あ、あれ?みたいな、(できものがあったり?)、みたいなときはネットで調べたりして、あ、これはイボなんだみたいな、そういうのはあります。あと、女性のお客さんと接するときも、シャワーももちろん一緒に浴びるんですけど、あの、ゴム、今、フィンドムという指用のとかつけたりとかします。

(フェラチオはゴムはなしが基本?)そうですね。で、オプションのプレイで、即尺というのがあって、お部屋に入ったらシャワー浴びずに、もうすぐプレイするというがあるんですけど、それはもう、前もってお店にお客様が即尺オプションお願いしますと言って、じゃあシャワー浴びといてくださいと言って、というのがあります。

店のタイプ(現在)

(今のところで働いてどれくらいです?)えっと、ちょっと一年くらいになるかな。デリヘルですね。(お客さんは性別関係なく来るところで?)来るというか、お客様というよりは、私自身がツイッターとかで、発信、めちゃくちゃ発信、自分であんまりやってるというのもおこがましいですけど、//一番最初のお店のときからTwitterで発信し続けてて、自分は女性も男性も関係なく、お相手させていただきま、とずっと言い続けてきてて、で、2個目のお店のときも、ちょこっと女性のお客さんも来てくださって、で、今のお店では、

もう、思いっきりそれも、店の方も、バイセクシャルっていうことと中性っていうこと、ちゃんとプロフィールに書いてくださっていて、で、女性のお客さまもいらしてくださるし、男性のお客さまもって感じで、すね。(今のお店自体、キャストもいろんな人がいるところで)キャストは、今も店は正直、高級店なんですよ。(基本、女性が所属するところ?)そうです、そうです。(中性も含めて、中性もトランスというとするならば、トランスの人も何人かいます?)いえ、いません。

(プレイの内容は、今までのところと変わらない?)
変わらないです。変わらないですけど、今の方が、より安全な感じがします。ちゃんとみなさん、節度をもってというか、怖い思いはしていないです。

性感染症の検査

毎月、〇〇〇医院ってところがつくっている性病検査キットがあるんですよ。それを、無料、無料でというか、お店が出して毎月やって。(他のところは、どうでした?先の二つは)二つは正直、あんまり。なんか自分でやってね、みたいな感じで。お店側の負担というのはなかったですね。

医療機関へのアクセス

一回、性病になったことがあるんです(そのときは治療はどういう風にしました?)今のお店のスタッフさんに相談したら、提携している病院がいくつもあって、いくつも紹介してくれたんですよ。(そういうときに、そういうところにいくときに抵抗感は...)産婦人科に行くってことはものすごく抵抗がありました。(それは産婦人科だったんですか)産婦人科です。(でもお医者さん是对応は別に?特に嫌な感じもなく?)なんかもう、お医者さんも仕事でやっているみたいだなあと思わないと、

性別移行

高校生のときに、もう男性、制服がむりって、そのときぐらいから、GIDのえっと、クリニックか、にちよっと通い出してたんですよ、それで診断もおりて、私、ほんと生理が無理だったんで、生理と、声か、今、声、

もっと声高かったんですけど、ほんとにもう、受け入れられなかったんで、あと、これ以上胸が大きくなるのほんといやだったんで、あの、ホルモン治療、治療じゃなくて、ホルモン投与したんですけど、それで声も今はだいぶ低くなって、で、生理もとまって、って感じなんですけど。(ホルモンはずっと続けている?)ずっと大学のときも続けてたんですけど、あの一、お金がなくなっちゃって、金銭的な理由で。(じゃあ、大学生の間ぐらいに、ホルモン投与は止めて)保留みたいな。(再開したいと思います?)今は、今ピルを飲んでるんですよ。生理は一応コントロールできるというか、来ないので、声変わりも一応したので、あんまり今は、あと、もともと自分は中性的な見た目のファッションとか好きで、だから、あんまり今は。(必要性を感じない?)そうですね。

性風俗業界に望むこと

個人的な希望は、希望というか目標としているのは、男性が利用する場所だという常識みたいなものをくつがえそうと思っています。誰でも使える場所だというふうに、自分にとらえているので。あとは、女の子が嫌がることをするお客さまとかが、普通に考えたら、自分がされた嫌なことは人にしないというシンプルなことなんですけど、それができてないお客様がいるので、そこは直して欲しいです。あと、不健全だからと給付金なしになった、不健全というところ、なん、うーん、って。//自分は性行為よりも、性行為もするけど、一緒にいる時間にお金を払ってくださってると思っているので、あの、デリヘルイコールエロいことっていう風な認識をもうちょっと緩和させていきたいなあ、っていうのはありますね。

tw-K(フォローアップインタビュー)

<立場>

40代・女装(性自認は男性)／ヘルス店に所属しているが、現在の主な仕事はミックスパブ店員

<経歴等>

ニューハーフヘルス店に所属して1年ほど。現在は、

女性が主のミックスパブに勤務している。

<インタビュー内容(抜粋)>

店のタイプ(現在)

(どういうお店、ですか?)ミックスパブっていうのなんですけど、普通の女性もいて、で、おかま、ニューハーフだったり、おかまちゃんもいたり、あと、今はいないんですけど、前はおなべさん、おなべさんもいたり、っていう感じで、で、ミックスという形でして。

(お客さんは男性?)基本、でも、女の方ひとりできたりもします。そのニューハーフが面白いからというので、来てくれたりとか、というのがありますし。//隣に座って、お酒作ってお話してという感じで。なんかスナックとキャバクラのあいのこ、みたいな、スナック寄り、どっちかというスナックっぽい感じ。(働いてる人はどういう...)今、十人ぐらいいます、私とほんとおかまちゃん、おっぱいもあるおかまちゃんが一人いて、で、私は女装枠というか、おかま枠で、あとはみんな女性です。で、年齢層もバラバラで、20代の子もいるし、50代の子とかもいるので。

(性風俗のほうのデリバリーは、どうですか、その後)始めた当初は、埼玉の田舎の方が拠点だったんですけど、東京の方も一応派遣可能って感じでやっていたんですけど//東京側の人撤退しちゃって、結局、埼玉の人が残って、そっちに私も在籍してって感じだったんで、都内にいたときは、それこそ池袋だったり、鶯谷とかでお仕事はきたりはしてたんですけど、やっぱり埼玉のほうになるとほとんど入らなくて、だからもう、全部で十本ぐらいじゃない、インタビュー受けてから、たぶん、十回くらいしか仕事してない。

(その後どういう方々がいらっしゃいました?)まあ、基本、やっぱり、年配、60代の方とか、でも、若い方もいましたし。

性行為と性感染症予防

(性行為は特に変わりなく?)まあ、普通に、普通の行為といえますか。(基本、オーラルセックスがあって...)そうですね、で、ま、お尻もつかってという感じで。(アナルは受ける側?)受ける側です。でも、な

んかお客さんによって逆もって言われて、してあげたことはありますけど。(結構、逆でっていうニーズもあり)結構ありますね。されたいっていう方も多みたい。私あんまり得意じゃないんで、そっちは。お願いされれば、まあ、がんばるけどっていう感じのあれで。

(そのときの、コンドーム使用具合はどんな感じでした?)半々、かなあ、割とないことも多いですね。//私も正直、ゴム痛くて、あまり好きじゃないので、なんか向こうがするなら止めないけど、無しでもよければそれでいいですよって感じで

[プライベートの性行為について]最近、ツイッターでDMくるので、その方とお会いして、というのは結構多い。//(コンドームの使用自体はどんな感じ。そればかり聞いて申し訳ないですけど)やっぱりあんまりないです、半々より、半分よりないと思います。8、2くらいかな。(むしろデリヘルよりは使わない?)うん、向こうがどうしてもって方だったら。たまにやっぱり、ゴムしたいって方はいるので、そういうときは全然、止めないですけど。

性感染症の検査

(この前インタビューして1年弱くらいですけど、その間に感染症が心配になることとか)というのは、特に...はい。(検査は何か受けるようなことは?)デリヘルの際に、性病の検査っていうのは、なんか三種類ぐらい、ちゃんと受けましたけど。

自身の性別意識について

(もともと聞いた感じでは、小さい頃、思春期も性別に違和はなくというみたいな感じで過ごしてこられて)そうですね、はい。(最近、どちらかというと、もう女性として、接客の時間も長くなったわけじゃないですか)そうなんです、だからもう女性として過ごしてる時間の方が長く、周りも女性多いし、周りの女の子からも、もう私もう女としてしか見てないよ、っていう感じで言われるから。(そういう中で、自分の性別観というか、変化はありますか)特に、そのメンタルの部分で変わった部分はないけれど、ただ、やっぱり、自信と

うか、そういう楽しさみたいなものは前よりやっぱり、はい。(じゃあ、ほんと、女性としての性別の格好して生活するのがだいぶ長い)長いですねー。ほんと週6とか、メイクしない日が、1日だけとか、逆にそんな感じになったりしますけど。//

MtFさん、要は、心は女性という人の知り合いは何人かいて、飲みのお客さんにもいて、聞くんですけど、やっぱり自分とは違うなあ、と。

D. 考察

1. 啓発の実施

(1) 資材製作

リーフレットの製作過程において出された意見、検討された課題で、トランスジェンダーを対象に啓発を進めていく上で重要と思われることを考察として記しておきたい。

まず、表象をめぐる問題である。海外のトランスジェンダーのセクシュアルヘルスに関するサイトでは、トランス女性、トランス男性当事者と思われる人の写真が掲載されていることが多い。しかし、まず日本では、そのように写真を出せる当事者は少ない。さらに、トランスジェンダー向けの資材であることを明示するために、トランスジェンダーの「当事者らしい」人物の写真を使うことは、ステレオタイプの強化につながる可能性がある。イラストも、人物を描いたものを用いるならば、同様な問題が生じる。一方、「当事者らしさ」を意識させない人物イラストを使うとすれば、社会における支配的な女性／男性のジェンダーイメージに沿ったものとなりがちであり、ジェンダーに関するマイノリティであるトランスジェンダーには抑圧的な意味を持つ恐れがある。そうしたことへの配慮から、今回の冊子では、人物イラストを避け、日常生活をイメージさせるカットを多く用いた。

また、掲載する文章を検討する中で、「体」について言及する言葉については、当事者から、センシティブな話題なので避けたほうが良いという意見が出され、削除することとなった。他、性感染症の不安があるときにどの科にかかるべきかということが、多くの当事者が困ることの一つとして指摘されたことで、表

紙に「性感染症のときには何科に行けばいいの？」という文言を入れることとなった。こうした製作プロセスから、啓発資材開発に当事者が参加することの重要性は明らかと言えるだろう。

だが、今回製作した資材はあくまでスタートであり、多様なトランスジェンダー当事者の意見を聞きブラッシュアップしていく必要があることも、製作に参加したメンバーの中で確認された。

(2) イベントの開催

本研究班が主催したイベントの内容について、開催スタッフからの報告には、「ゲストの水商売の経験談からは、HIV・性感染症を話題にすることや検査行動は、雇用関係にも影響するため、しづらい環境にあることがわかった。また性感染症が心配な時に何科を受診したらよいかわからないトランスジェンダーが多いとの話題があった」と記されている。これまでも指摘してきたトランスジェンダーの抱えがちな問題が確認される内容だったと言えるだろう

また、「来場者は生き生きとした表情で、参加した喜びを語っていた」「トランスジェンダーのセクシュアルヘルスについて話題にする機会はまだまだ少なく、継続の必要性を感じた」と挙げられている。(報告書は本文後に掲載)。

2. WEB 質問紙調査の分析

以下、(冊子 p.*)とあるのは、本報告末に資料としている添付している冊子『トランスジェンダーとセクシュアルヘルス 2021年オンライン調査から』上の、記したページに、グラフが掲載されていることを示す。なお、冊子のページ番号は、偶数ページのみ左中央に記載されている。

なお、冊子に掲載されていないグラフは本文内で提示する。

[ジェンダー／セクシュアリティの多様性]

これまでもインタビュー調査等を通じて指摘してきたことであるが、トランスジェンダーと一口に言っても、ジェンダー／セクシュアリティのあり方は多様である。

今回の調査の回答者では、トランス男性 (FtM) 58.6%、トランス女性 (MtF) 18.5%の他に FtX が 10.9%、MtX が 6.5%である。(冊子 p.6) tX は、X ジェンダーを指しており、「男性でも女性でもない」や、あるいは「男性でもあり女性でもある」など、男性／女性のいずれかではない性自認を持つ人たちのことである。

また、治療や戸籍名変更も、性別変更の経験も様々である。最も多いのは、ホルモン治療の 68.8%となっている。希望するすべての手術を実施した人は、32.2%。部分的な手術は 20.3%である。(冊子 p.5)

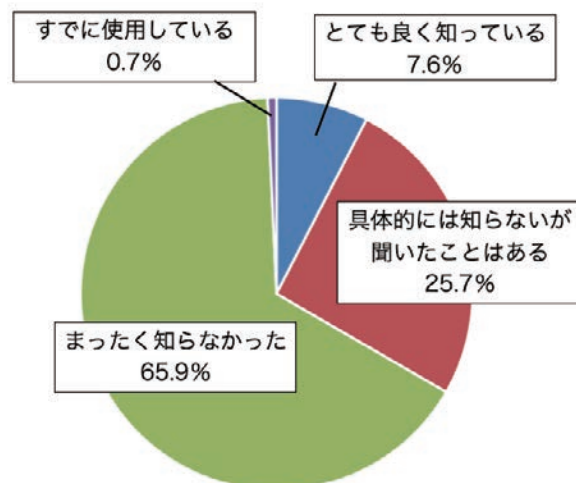
さらに、性的指向も、異性愛者が 40.9%と多数ではあるが、残りは、パンセクシュアル(全性愛者)、バイセクシュアル、その他、ゲイ、A セクシュアル等となっている。(冊子 p.6)

[HIV／エイズの知識]

HIV 検査に関する知識として重要な「通常 HIV 抗体検査(エイズ検査)では、HIV に感染してから 2～3 ヶ月経過しないと感染しているかどうか分からない」の正答率が 38.4%と低い。(冊子 pp.10-11) また、U=U についても全く知らないが 46.7%を占め、あまり知らない 21.7%と足すと 68.4%を占める。(冊子 p.10)

さらに PrEP については、「具体的には知らないが聞いたことはある」「まったく知らなかった」を合わせると 91.6%である。(グラフ 1) 全体的に、HIV/AIDS に関する情報が行き届いていないと言えるだろう。

(グラフ 1) 問 25 PrEP について知っているか (N=278)



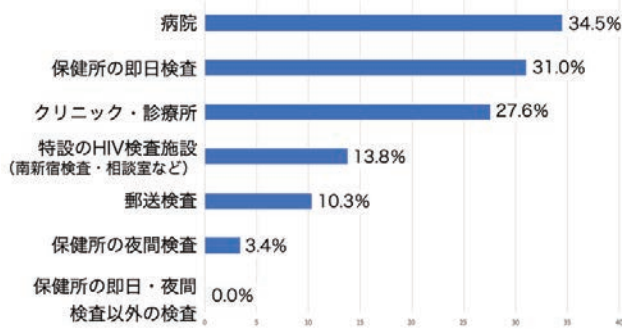
[HIV 検査]

HIV 検査の生涯受検率は 33.0%である。(冊子 p.11) 性別による違いを見てみると、トランス男性 25.5%、X ジェンダー 22.9%に対して、トランス女性が 17.6%と最も低くなっている。(冊子 p.11) 受検経験のない人に理由を尋ねた質問では、「感染している可能性がないから」が 58.4%と多数を占めるものの、先の HIV／エイズの知識と重なる問題として、「検査場所を知らない」を選んだ回答者が 13.5%いることが指摘できる。(冊子 p.9)

また、「ジェンダー／セクシュアリティを伝えるのが面倒である」を選択した人が 14.1%いることにも、意識を向ける必要があるだろう。(冊子 p.13) この問題については、「出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、HIV 検査に関して、病院や保健所が使いにくくなったことがあるか？」に対しても、「ある」と回答した人が 15.6%おり(冊子 p.13)、これらの結果からも、ジェンダーのマイノリティに対する偏見や理解の乏しさへの不安が、受検行動を妨げる一つとなっている。

その一方、過去 1 年で受けた HIV 検査の場所で、対面を回避できる「郵送検査」を選んだ回答者は 3 名(10.3%)と少ない。(グラフ 2) HIV 検査場所を知らない人が多いという回答も併せて考えると、様々な検査機会に関する情報提供が必要と言えるだろう。

(グラフ 2) 問 20-1 過去 1 年間に受けた HIV 検査の場所 (N=91)

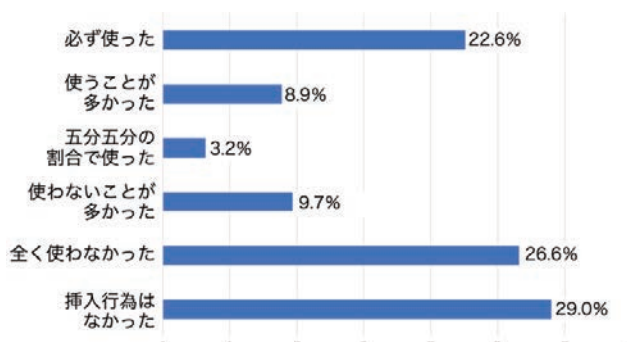


[性感染症の診察]

性感染症の診察に関しては、HIV 検査受検よりさらに性別違和への偏見や理解の乏しさへの不安が障壁となっている。「出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、性感染症の心配があったときに、病院やクリニックで診察が受けにくくなったことがあるか？」に「ある」と回答した人が、26.4%にのぼる。(冊子 p.14) 性別別では、X ジェンダー 40%、トランス男性 32.2%、トランス女性 15.6%と高くなっている。(冊子 p.14) ジェンダー／セクシュアリティに関するマイノリティが安心して受けられる医療機関の情報が求められている。

[コンドームの使用]

過去 6 ヶ月に性交渉の経験がある人に、コンドーム使用(過去 6 ヶ月)について尋ねた質問では、「必ず使った」は 22.6%、「使うことが多かった」は 8.9%。「五分五分の割合で使った」は 3.2%、「使わないことが多かった」は 9.7%、「全く使わなかった」は 26.6%だった。(グラフ 3) 過去 1 年間に受けた HIV 検査の場所 (N=124)

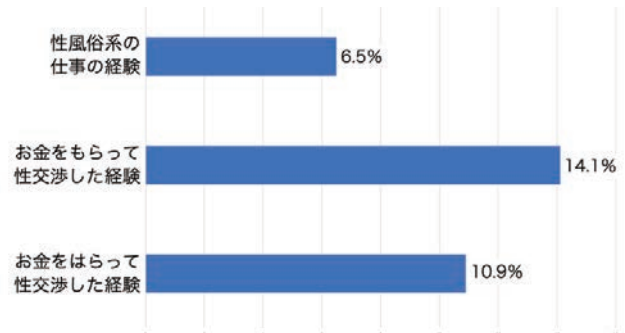


[セックスワーク]

「これまで相手からお金をもらって性交渉をしたことがあるか」に対して、「ある」と回答している人は 39 人 (14.1%) であった。そのうち半数以上 (56.4%) が、5 年以上前のことと回答している。1 年以内は 9 人 (23.1%) だった。(冊子 p.17)

一方、「性風俗系のお仕事をしたことがありますか」という質問に対して「ある」と回答した人は、18 人 (6.5%) であり、「お金をもらって」よりかなり少ない。(グラフ 4) これは、性風俗系という言葉が、店舗等で働く形態や職業的な形をイメージさせることによるものと思われる。

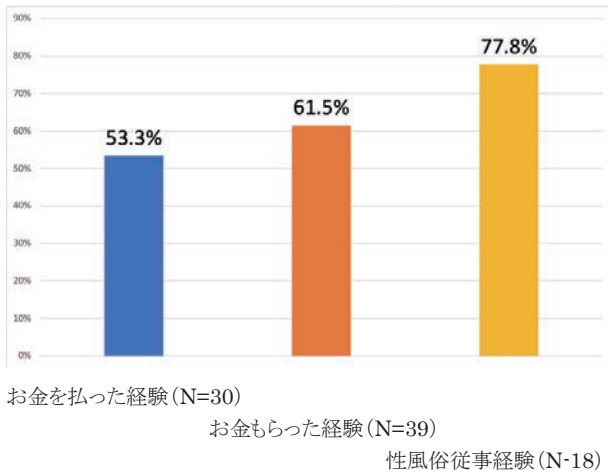
(グラフ 4) セックスワークに関連する回答の比較



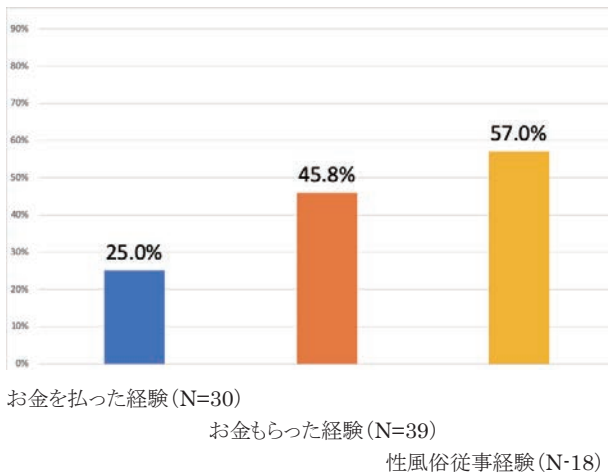
[セックスワークと検査]

金銭の授受をとまなうセックスの経験と HIV 検査受検経験をクロス集計したところ、「お金をもらった性行為経験あり」では 63.5%、「性風俗従事経験あり」では 77.8%と、後者の受検経験が高かった。また、金銭の授受のうち、「お金を払った性行為の経験あり」では、57.0%で、お金を受ける側の二つより受検経験は低かった。しかし、いずれも全体の生涯受検率 33.0%よりはるかに高い。これには、セックスワークで提供される性行為内容や、「性風俗従事経験」が主に店舗勤務でのセックスワークであることをから、店側から検査を求められることがあることが関連していると思われる。

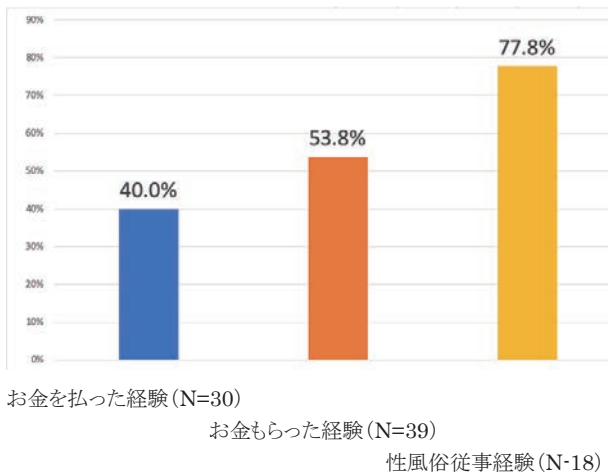
(グラフ 5) これまでの HIV 検査経験(セックスワークに関する経験別)



(グラフ 6) 過去 1 年間の HIV 検査経験(セックスワークに関する経験別)



(グラフ 7) これまでに HIV 以外の性感染症の検査経験(セックスワークに関する経験別)



3. TG の性産業関係者のインタビュー調査

今年度のインタビューも 4 名(新規 3 名、フォローアップ 1 名)と少数であったが、性別に関する経験もセックスワークにおける経験も、それぞれに大きく異なり、あらためてトランスジェンダー・セックスワーカー (TG-SW) の多様性を示すものであった。また、昨年度インタビューをおこなった tw-K のフォローアップインタビューからは、TG-SW という職の不安定さと、性行為をとまなわない接客業との近接性について知ることができた。

性別アイデンティティと性別移行に関して、今回の 4 人は異なる状況にある。トランス女性である tw-L は、ホルモン治療を継続しながら睾丸摘出手術を受けており、性別適合手術と戸籍の性別変更のための資金を貯めることを目的として、現在のヘルス店で働くようになった。tw-M も、ホルモン治療を受けており、その負担を減らすために睾丸の摘出手術も受けたが、さらなる手術に対して強い意志があるわけではなく、性別変更も含め、これから出会うパートナーとの関係性に応じて決めたいと語っている。tw-N は、出生時の性別(女性)に違和感があり、中性という表現が自分には一番合っていると感じている。身体的な性別移行に関しては、高校時代から大学時代にかけて受けていたホルモン投与で声が低くなったこと、現在ピルを服用していることで月経が止まっていることで、性別移行のための更なる医療的措置は必要ないと感じている。また、昨年度もインタビューを行った tw-K は、性別違和は感じていないが女装して SW に従事している者であるが、その後、ミックスパブで女装して働くようになり、最大週 5 で入るため、以前よりも女性の姿で生活する時間が長くなっているという。しかし、それでも性別意識の変化はなく、トランス女性の知り合いと話す中で「やっぱり自分とは違うなあ」と感じていると語っている。

また、客側も一様ではない。セックスワークについて語る際、客が男性であるケースだけが想定しがちだが、tw-L の場合、同業者を含め女性客が半数ほどを占めることもあり、tw-N は、自ら積極的にあらゆる性別の人を受け入れることを SNS で表明してい

ることもあり、より多様な客と出会っている。

性行為の内容や感染症予防、HIV を含めた性感染症の検査に対する経験も、当然ながら個人差がある。これまでのインタビューでは、全体的には、オーラルセックスではコンドーム使用は基本ないものの、アナルセックスでは必ずコンドームを使うという人がほとんどであったが、今回は、店側が認める形でコンドームを使用しないパターンを経験についてうかがうことができた。

tw-L の働く店では、プレイのオプションとしてコンドームをつけずにアナルセックスをする「生オプション」がある。オプションは SW 側が自分で選択できるのだが、できるだけ多くのオプションを入れたほうが客が付きやすいということで tw-L は選択している。

tw-K は、登録していた店側のプレイとしての設定はないが、コンドーム使用には痛みを感じるため、相手が望まない場合にはコンドームを使わないと語っている。当然ながら、このように個人の意志による違いもあるが、tw-L の例は、店の方針が決定的な影響を与えていることは言うまでもない。また、店のタイプと、それにより異なる客の傾向は、SW の安全性も左右する。tw-N は、「激安店」で働いているときに、してはいけない「ほんちゃん」(臈性交)を求めてくる客が多かったこと、今働いている「高級店」ではより安心感があることを語っている。

検査受検は、さらに店の方針が大きく影響する。tw-L は、経費の一部を店が負担する形で性感染症の検査を毎月受けており、tw-K も店の負担で検査を受けていた。tw-N も現在の店では完全に店の負担で検査を受けているが、以前働いていた店では自己判断に任せられていたという。また、tw-M も、自費で受けており、過去の経験として店によって検査に対する態度が全く違うことを語っている。

トランスジェンダーのセクシュアルヘルスを考える上で重要なのは、検査を受けるときや性感染症に感染したときなどの医療機関等へのアクセスの問題である。tw-L は、今は女性として生活しており、職場でも女性として働いているが、性別変更はしていないため(そのための手術要件をクリアしていない段

階のため)法的には男性のままである。だが、病院側も配慮をするようになってきており、嫌な思いをすることははないという。一方、女性として生まれ、中性としてのジェンダーアイデンティティを持つ tw-N は、性感染症に感染したときに店の紹介で病院に行くことになったものの、それが産婦人科であったため、とても抵抗感を感じたという。それは、産婦人科という女性のための科へ、女性としての性別に違和感を持ち、自らを中性と感じていることによる。女性として生まれたが、男性として生活しているトランスジェンダー、あるいは、tw-N のように中性として生活している者は、性別移行の状態により、性感染症に感染したときに産科/産婦人科へ行くことが多い。よって、特にそれらの科でのトランスジェンダーに対する理解を広めることが、その人たちのセクシュアルヘルスをめぐる環境を改善していく上で重要と言えるだろう。そして、無論、あらゆる医療機関や保健所で、トランスジェンダーに関する知識を広げ、セックスワークに対する偏見を無くしていくことが、TG-SW のセクシュアルヘルスにとって重要なことは言うまでもない。

また、研究結果の抜粋では示していないが、PrEP について知っているか尋ねたところ、どのインタビュー協力者も知らなかった。上述したように、店の方針によりコンドームを使用しない行為が生じやすい環境にいる SW もいる。インタビューでは、PrEP について説明することにしてはいるが、興味を示す人は多い。今後、SW に対する PrEP に関する情報提供も重要な課題と言えるだろう。

E. 結論

今回集計した WEB 質問紙調査の結果からは、HIV 検査を受けられる場所に関する重要な情報や U=U、PrEP といった比較的新しい情報がトランスジェンダーに十分に行き渡っていないことが明らかになっている。この調査は、SNS を通じて回答者を募り、WEB 上で回答する形式であることから、回答者はインターネットの利用に慣れている人たちであることが想定される。それは、HIV/AIDS に関する情報へのアクセスも比較的容易であり、トランスジェ

ンダーのネットワーク上にいる人たちであるわけだが、その人たちに情報が行き届いていないということは、そうではない人たちには一層届いていない可能性も高い。

そうした状況の中、トランスジェンダー当事者が参加し啓発資材を製作したことの意義は大きい。インターネットを利用し、かつトランスジェンダーのネットワークにいるにもかかわらず、情報が十分に行き届いていないということは、その人たちを対象とした資材が不足していることが考えられるからだ。このような、hard to reach のマイノリティを対象とした資材を開発するときには、情報を吟味し、表現に十分に配慮する必要がある。今回、製作における議論を考察に書き残したのは、その問題意識からである。だが、質問紙調査、インタビュー調査いずれからも、TGの多様性が示されている中、その多様性を意識した様々な啓発資材が必要である。

こうした情報を広く流通させるためには、ネットワークのハブとなる人たちの存在が重要であり、「I Am トランス☆カフェ」や「kinky café」には、そうした人たちを増やし、つないでいく役割が期待される。また、担当スタッフの報告からは、エンパワメントの場になっていることもうかがえる。

しかし、これまで十分に啓発対象とされたなかった層に情報が行き届くには時間がかかることから、

長く啓発がおこなわれていく体制が必要と言えるだろう。

また、インタビュー調査からは、性行為の内容や感染症予防、HIV を含めた性感染症の検査、接客における経験などには店の方針等が影響しており、コンドームを使わないプレイが設定されている店で働くSW には、PrEP の情報を提供していくことも必要であると思われる。

F.健康危険情報

特になし

G.研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳文、砂川秀樹、宮田りい、今村顕史：「トランスジェンダーとセクシュアルヘルス」GID 学会第 23 回研究大会(ポスター発表)、2022.3.12-13(オンライン)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(資料)

イベント「第4回トランス☆カフェ」実施報告書

2022年1月31日 浅沼智也、荒木順

日時:2022年1月23日 14時～16時半

会場:新宿二丁目 DRAGON MEN

対象:トランスジェンダー、ノンバイナリー、Xジェンダー、そうかもしれない人、および関心のあるすべての人

入場無料:新型コロナウイルスオミクロン株感染拡大を受けてドリンクの提供を中止

目的:

- ① トランスジェンダー、ノンバイナリー、Xジェンダー、そうかもしれない人、が安心して交流できる場づくり
- ② HIV・性感染症、セクシュアルヘルスの情報提供と予防促進
- ③ トランスジェンダー、ノンバイナリー、Xジェンダー、そうかもしれない人、
またその周囲の人への理解を促進する

出演者:虹緒翔(ショーパフォーマンス&トーク)

mio(DJ)

浅沼智也(MC&アテンダント)

マダム ボンジュール・ジャンジ(MC&アテンダント)

手話通訳:らーちゃん

英語通訳:しょうさん

記録撮影:Foster Mickley & Isabelle Olivier

主催:TRANS CAT'S EYE

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

HIV 受験鑑賞のための性産業従事者や事業者に対する効果的な介入に向けた研究(研究代表者:
今村顕史)

タイムスケジュール:

- 12:30～13:00 会場設営
- 13:00～13:45 リハーサル
- 14:00～14:25 オープン
- 14:25～14:30 挨拶・注意事項・感染対策・ゲスト紹介
- 14:30～14:40 虹緒翔ショー①
- 14:40～15:10 トークショー

- ① HIV の受検経験
- ② HIV の対話経験、HIV の身近さについて
- ③ U=U とは
- ④ 検査や治療のうけづらさ
- ⑤ 課題と今後

15:10～16:00 DJ タイム:mio
16:00～16:10 虹緒翔ショー②
16:10～16:20 告知タイム&フィナーレ
16:30 クローズ
17:00 完全撤収

来場者:15名 (キャンセル:5名) 出演者・スタッフ:7名

報告:

- ・ショータイムと音楽でリラックスできる環境をつくり、HIV・性感染症、セクシュアルヘルスのことについて、楽しみながら知り、考える機会を提供した。
- ・参加者同士の交流を促した。
- ・「トランスジェンダーとセクシュアルヘルス」の調査結果パネルを館内に展示した。
- ・報告書やセクシュアルヘルスのパンフレット等を設置し、自由に持ち帰ってもらった。
- ・トークショーでは、調査結果の報告とテーマに基づくゲストを交えた意見交換を行い、今後の取り組みの課題についても言及した。ゲストの水商売の経験談からは、HIV・性感染症を話題にすることや検査行動は、雇用関係にも影響するため、しづらい環境にあることがわかった。また性感染症が心配な時に何科を受診したらよいかわからないトランスジェンダーが多いとの話題があった。
- ・研究班のインタビュー調査への協力をよびかけた。
- ・新型コロナウイルス感染対策を徹底し、事前申し込み制を導入した。またオミクロン株による感染拡大を受けてドリンクの提供を中止し、入場無料とした。
- ・来場者は生き生きとした表情で、参加した喜びを語っていた。
- ・ろう者の LGBTQ+ が 5 名程参加してくれた。
- ・トランスジェンダーのセクシュアルヘルスについて話題にする機会はまだまだ少なく、継続の必要性を感じた。



電話相談

HIV ふれいす東京

不安相談

- 東京都HIV/エイズ電話相談(東京都委託事業)
- ☎ 03-3227-3335
- 月～金 12:00～21:00(休日夜間緊急相談)
- 土・日・祝日 14:00～17:00(休日夜間緊急相談)

相談者、パートナー、家族も利用

- ホップアップライン(厚生労働省委託事業)
- ☎ 0120-02-8341
- 月～金 13:00～19:00(休日・夜間緊急相談)
- 木 15:00～18:00(休日夜間の相談受付)

全席

- 匿名でHIV検査やパートナーシップによる相談も可
- <https://jshivlinecity.jp/51/>

- CaPrime 電話相談一覧リンク表
- <https://prime.jmda-rye.com/> (電話相談一覧リンク表)

コミュニティセンター

- akta**
- 新宿二丁目にあるHIVを中心としたセクシュアルヘルスに関する情報センター。フリースペース、お茶でも利用できます。15:00～21:00(休日夜間・年末年始) 新宿区新大塚1-13-13 第二ビル5F 505 TEL:03-3238-8998 <http://akta.jp>
- dista**
- トランスジェンダーやダイバーシティを推進するためのHIV/AIDSに関する相談やイベントなどを行っているコミュニティセンター。17:00～22:00(休日夜間・年末年始) 大塚もも野原山町11-2 第三ビル214号 TEL:04-6361-9190 <https://www.dista.osaka>
- プライドハウス東京レガシー**
- 東横のビルO2T1センター 11:00～19:00(休日夜間・年末年始) 新宿区新大塚1-14-1 新大塚ビル202号 TEL:03-6361-5127 lhbz.jp/legacy

トランスジェンダーとセクシュアルヘルス

Q & A

性感染症のときに何科に行けばいいの?

HIVってなに?

TRANS & SEXUAL HEALTH

どんな人も、ウェルビーイング(健康)で幸福に生きる権利を持っています。

このページでは、HIV/エイズ・性感染症(主にセックスで感染する病気)の子供のしかたや心配な時にどうしたらよいかなどについてお伝えします。

なにかひとつでも、あなたの性の健康のヒントになればと思います。また、もしあなたの近くで困っている人がいたら、ぜひご紹介ください。

こちらのQRコードからも閲覧できます

http://www.hivthemedia.jp/pages/15668846?page_20111227152

発行 国立労働科学研究所健康増進・エイズ対策研究事業 性感染症対策の推進に関する研究事業 東京府等に対する感染予防介入に関する研究(研究発表会 年刊報告)

トランスジェンダーとセクシュアルヘルス・プロジェクト <https://www.hivthemedia.jp>

制作/印刷 株式会社アイ・エス・エー・エス・エー・エス・エー・エス・エー

Safer Sex (より安全なセックス) について知っておくと、もっと安心してセックスを楽しむことができます。

より安全なセックス

- ヴァギナ(いわゆる女性器)、肛門に、コンドームをつけずにペニスを入れることが、もっともいらいらな感染源に感染しやすい行為です。ペニス側の人でも感染する可能性があります。
- 手洗いで洗ったヴァギナ、ペニスでも、おり液などが残ることから、感染することがあります。
- 手洗などで薬分濃度がなくなった状態のヴァギナは、より感染源に感染しやすくなります。
 - ➡️ コンドームとすべりよくするためのローション(潤滑剤)を使うと手洗ができます。
 - ※ペニーオイル、ハンドクリームなど油性のものは、コンドームが溶れやすくなります。潤滑剤は、事前などで手に入ります。
- フェラチオやクニ(ヴァギナをなめること)することでも感染の可能性がある感染症があります。アナルをなめる行為にも、A型肝炎の感染の可能性などがあります。
- 相手の精液が体内に入るとさらに感染の可能性が高くなります。
- なめられるほうはHIVが感染することはまずありません。他の性感染症の可能性もとても高いです。
 - ➡️ ヲリ、肛門、口などに唾液が入ることを避けることで感染の可能性を下げられます。
 - ➡️ もし入ってしまったら、すぐに洗ったほうが感染の可能性を少し下げられると考えられます。
- 他の人がヴァギナや肛門に入れた指(ディルド)を、変わらずに自分や他の人に入れると、あとで入れた人HIVもよく、いろいろな感染症に感染する可能性があります。
 - ➡️ 洗剤などで洗ってから使うか、コンドームをかぶせて使い、使う人が変わるたびにコンドームを変えると感染を防げます。

HIV/エイズのこと

Q & A

Q エイズってどんな病気ですか？

A HIVというウイルスに感染することで、HIV感染症となります。治療をしないと、徐々に抵抗力が落ち、さまざまな病気を発症します。この状態をエイズといいます。

Q どういうことで感染しますか？

A ウイルスが血液、精液、膈分泌液に含まれ、粘膜や傷口から体の中に入って感染します。たとえば、セックスでは次のような行為です。

- コンドームを使わない膈性交、アナルセックス
 - コンドームを使わないフェラチオ(特に口内射精がある場合)
 - 相手の血液が粘膜(口・目や鼻の中・肛門の内側、傷口)につく
- ※先妻り液や膈液の分泌液にも含まれます



Q 感染した場合の症状はどのようなものですか？

A 症状がないことも多いです。症状があっても、風邪なども区別がつきにくいので、検査でしか感染しているかどうかは、わかりません。

Q 感染していたらどうなりますか？

A 薬を飲むことで、エイズの発症をおさえられ、ほとんどの感染者が、それまでと同じように生活できます。また、薬を飲んで体中のウイルス量が検出されない状況になれば、他の人に感染させることがなくなります。これを「U=U」(ユー=イ コールズ=ユー)と表します。



Q 検査を受けるときに気をつけることがありますか？

A 心配なことがあってから、2〜3ヶ月以上経って受けてください。



性感染症とは



おもにセックスでうつる病気です。

梅毒、淋病、クラミジアなどがあります。種類によって違いますが、精液や膈分泌液などが、生殖器や肛門、口の中などの粘膜や傷口に接触して感染するものが多いです。症状が出ない場合もあります。症状が出たりなくなったりしながら、悪くなるものもあるので、気になることがあったら早めに検査を受けることが大事です。



予防ワクチンがあるものもあります

- 実形コングローマ(ヒトパピロマウイルスのワクチン)
- B型肝炎
- A型肝炎

詳しくは



これって性感染症(HIV検査・相談マップ)
<https://www.hivkenza.com/>

Q 心配なとき、何科にいけばいいですか？

A 性病科のほか、基本的に、ペニスは泌尿器科、膈とそのまわり(いわゆる女性器)は婦人科/産婦人科、肛門は肛門科ですが、皮膚科や内科でもくわしい医師がいることがあります。



Q 検査だけ受けるには？

A ● 保健所や検査センターでも無料で受けられることがあります

➡ 「HIV検査・相談マップ」
<https://www.hivkenza.com/>

● 性病検査 受けたい地域名
で調べて、クリニックを探す

● 郵送検査 ネットで

性病 郵送検査 で検索してみる



HIVの検査を受ける方法

1 保健所

- 無料、匿名
- どこかの保健所でも受けられます
- 保健所によって曜日や時間が違います
- 予約が必要な場合があります

2 病院やクリニック

- 有料(5,000〜8,000円)

3 検査センター

- 無料、匿名
- 東京、神奈川、大阪などにあります
- 夜間や土日でも受けられます

検査を受けられる場所を探せます

「HIV検査・相談マップ」
<https://www.hivkenza.com/>



4 郵送検査

- 有料
- 検査キットをネットで購入する方法です
- 陽性の場合、確認検査を病院などで受けます

エイズ 郵送検査

HIVの感染リスクを下げる方法

PrEP(プレップ)

日本ではまだ認可されていませんが、薬を飲むことでHIV感染のリスクを大きく減らす方法です。毎日1錠飲む方法(デイリー)と、セックスの24時間前と2時間後と48時間後に1錠ずつ飲む方法(オンデマンド)があります。オンデマンドは、トランスジェンダーには勧められていません。薬的にHIVに感染していないことの確認が必要です。また、3ヶ月に一回のHIV検査、腎機能検査が必要です。他の性感染症の検査も勧められています。

詳しくは



国立国際医療研究センターHIV科 PrEPの基礎知識
<http://hivkenza.nigms.go.jp/rep/04.html>

妊娠の可能性について

トランス男性(♂)の人は、ホルモン治療で生理が止まります。しかし、卵巣と子宮がある場合、ホルモン投与の状況によって、妊娠することがあります。特に中断した場合、気をつける必要があります。

アフタービル

妊娠の可能性があったあと、72時間以内に薬を飲むことで、97%の避妊効果が得られます。産婦人科で、処方してもらえます。6,000円〜2万円です。



TRANS &
SEXUAL
HEALTH

トランスジェンダーと セクシュアルヘルス

TRANSGENDER & SEXUAL HEALTH

2021年オンライン調査から

トランスジェンダーとセクシュアルヘルス

2021年9月発行

発行

厚生労働科学省補助金エイズ対策政策研究事業
HIV感染拡大のための性差要因調査や事業者等に対する
効果的な介入に向けた研究（研究代表者：今村麗史）

デザイン 株式会社L13

本調査について

調査目的

性別違和・トランスジェンダー当事者におけるHIV感染症の検査や予防へのアクセス、またセクシュアルヘルスの実感を明らかにする。

調査手法

WEBアンケート調査

調査期間

2021年2月17日～3月11日

回答数

276名

有効回答数

276件

回答者募集方法

SNSを通じて日本全国の当事者へ調査協力を呼びかけた

結果解釈における注意点

- Webアンケートのため、回答者の属性に偏りがある可能性がある。
一本調査の結果は、当事者の医療アクセス改善のための活動に用いる。この冊子もその活動の一部として作成している。
- 割合は四捨五入しているため、すべての回答を総計しても100%にならないことがある。

用語

MtF/トランス女性

出生時に割り当てられた性別が男性、性自認が女性

FtM/トランス男性

出生時に割り当てられた性別が女性、性自認が男性

FtX

出生時に割り当てられた性別が女性、性自認が女性/男性いずれかのみ以外

MtX

出生時に割り当てられた性別が男性、性自認が女性/男性いずれかのみ以外

目次

04	06	08
回答者の基礎属性	ジェンダー／セクシュアリティ	HIV検査
10	11	12
エイスの知識	HIV以外の性感染症検査	性感染症の罹患歴・受診
13	15	17
性別違和感と検査や受診の関係	性交渉	金銭授受を伴う性交渉
18	19	
性産業の従事経験	あとがき	

用語説明

GID (性別同一性障害): Gender Identity Disorder WHOのICD (国際疾病分類)-10の診断名。
2022年発効のICD-11からGIDは削除、GI (Gender Incongruence: 性別不合=厚生労働省の仮訳)。
GD (性別違和): Gender Dysphoria アメリカ精神医学会DSM (精神疾患の分類と診断の手引)-5の診断名。

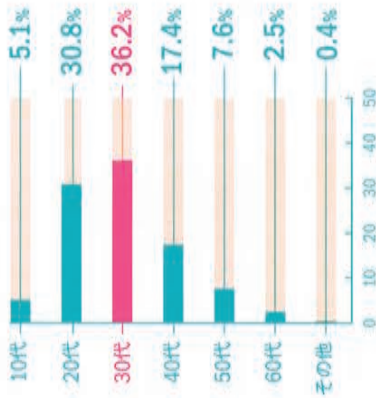
冊子制作編集

漆沼野也 (TRANS VOICE IN JAPAN)
金子典代 (名古屋市立大学)
富田りりい (関西大学 人間問題研究室)
荒木順 (特定非営利活動法人akta)
梶野裕史 (大阪南山大学)
砂川秀俊 (明治学院大学国際平和研究所)

回答者の基礎属性

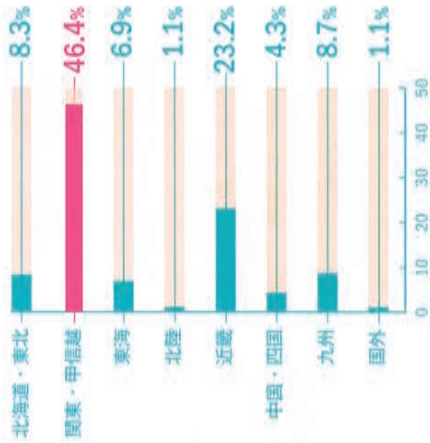
年代 n=276

年代については平均年齢は、35.2歳であった。
20歳代が30.8%、30歳代が36.2%であった。



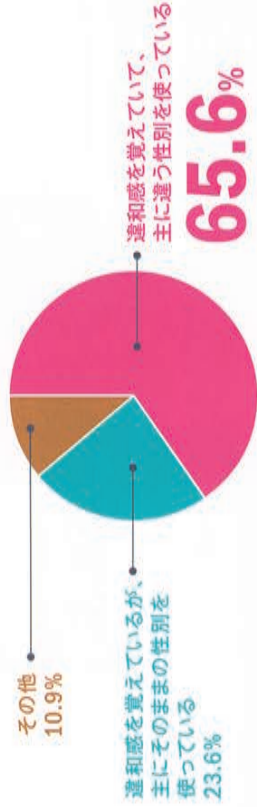
居住地域 n=276

居住地域は関東甲信越が46.4%と最も多かった。
都道府県で見ると東京都が最も多かった。



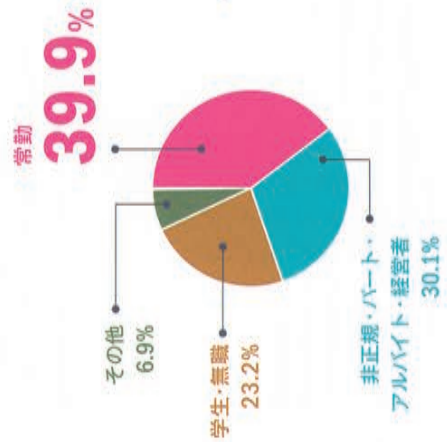
出生時の法的な性別について n=276

出生時の法的な性別とは違う性別を使っているものが
65.6%であった。



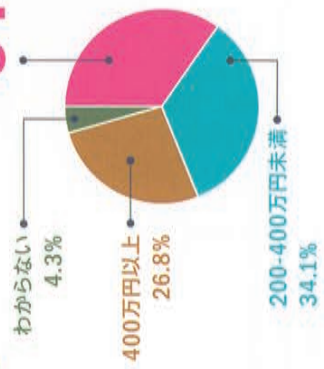
現在の職業 n=276

職業については常勤の割合は
39.9%であった。



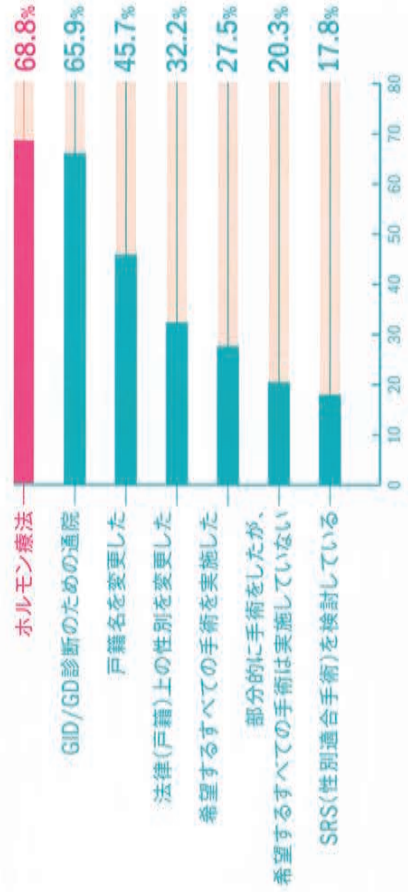
年収 n=276

200万円未満
34.8%



治療、戸籍名変更、性別変更等を経験した割合 n=276

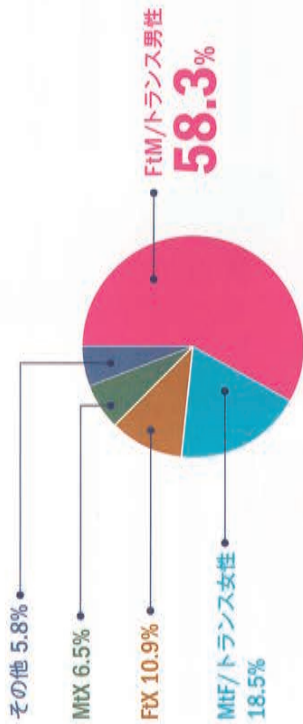
ホルモン療法は68.8%の回答者が経験しており、
GID/GD診断のための通院が65.9%と続いた。



ジェンダー/セクシュアリティ

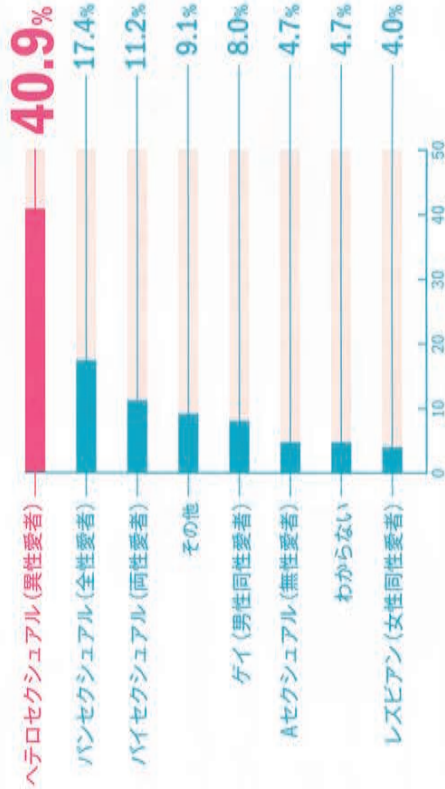
*相手の性別に関わらず恋愛・性的対象となること

ジェンダー/セクシュアリティの自己意識 n=276



「その他」には、ノンバイナリー、表明しない、女表、会社では男だが他はFXなどが含まれる

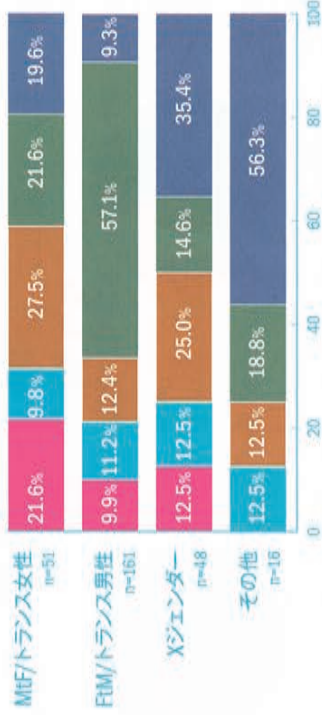
性的指向 n=276



性的指向については、ヘテロセクシュアルが40.9%と最も多かった。非常に多様であることがわかる。

ジェンダー区分と性的指向区分 n=276

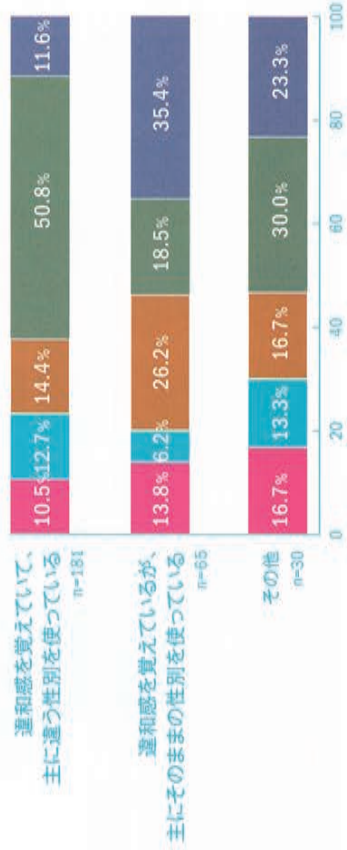
■ 同性愛者 ■ バイセクシュアル (両性愛者) ■ パンセクシュアル (全性愛者)*
 ■ ヘテロセクシュアル (異性愛者) ■ 不明・その他・Aセクシュアル



ジェンダー/セクシュアリティ別に性的指向の割合を見ると、多様な組み合わせであることがわかる。MtFにおいてはパンセクシュアルが27.5%、同性愛者21.6%が多く、FIMではヘテロセクシュアルが57.1%と最も多い。

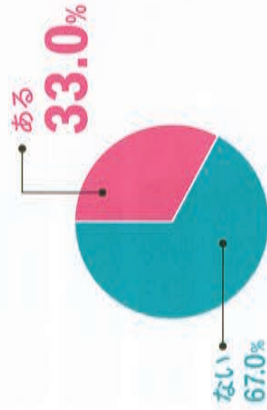
出生時性別への違和感と性的指向区分 n=276

■ 同性愛者 ■ バイセクシュアル (両性愛者) ■ パンセクシュアル (全性愛者)*
 ■ ヘテロセクシュアル (異性愛者) ■ 不明・その他・Aセクシュアル

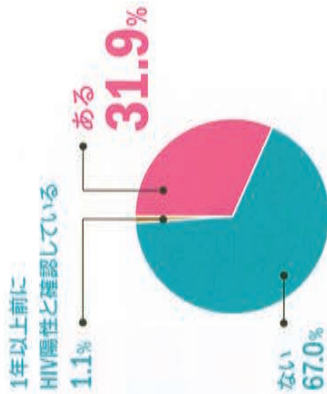


HIV検査

これまでにHIV抗体検査 (エイズ検査)を受けた経験 n=276



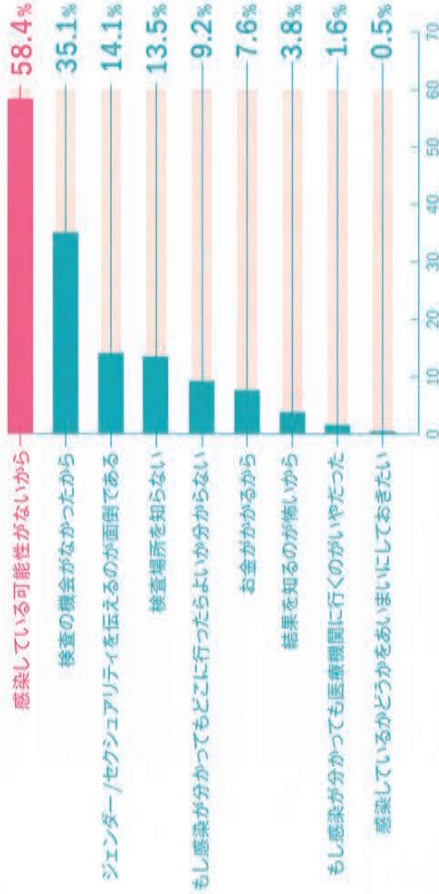
過去1年間にHIV抗体検査 (エイズ検査)を受けた経験 (受検経験者のみ対象 n=91)



これまでにHIV検査を受けたことがある割合は、
ゲイ・バイセクシュアル男性の**62.3%**より低い。
(LASH調査報告書 <https://www.chiiki-shien.jp/image/pdf/LASH20180227.pdf>)

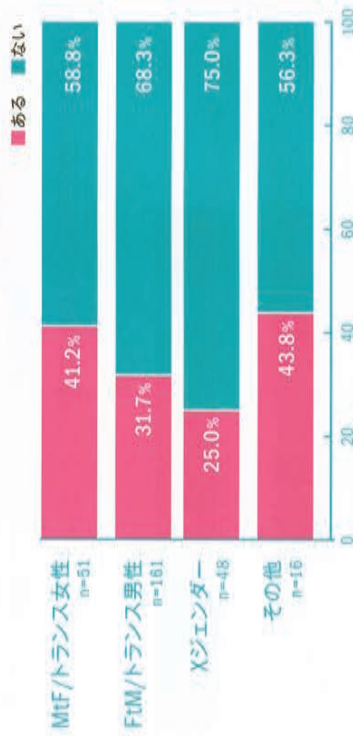


HIV検査を受けていない理由 (検査未経験者のみ対象、複数回答 n=185)



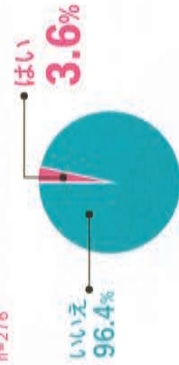
HIV検査を受けていない理由は、感染している可能性がないから、が**58.4%**と最も高い。
検査の機会がなかったからが続いて多い。

HIV抗体検査(エイズ検査)の受検経験 n=276



HIV検査経験は、MtF (41.2%)がFtM (31.7%)より高かった。

これまでに通院先の医師から HIV検査を勧められたことがあるか n=276



これまで通院先の医師からHIV検査を勧められた経験は**3.6%**であり、低いことが示された。諸外国ではトランスジェンダーは少なくとも1年に1回の検査受検を推奨されている。性的に活発であることがうかがえた場合は、HIV検査の打診も検討する必要があるだろう。

COMMENT

トランスジェンダーの人々はHIVの感染リスクが高く、より介入を届けるべき集団として世界中で位置づけられています。日本ではゲイ・バイセクシュアル男性においてHIV感染率が顕著に増加したこともあり、予防情報の提供、検査プログラムなどは、男性と性行為のある男性を主たる対象としたものが行われてきました。一方トランスジェンダーなどのプログラムのマイノリティに対してのプログラムは非常に少ないのが実情です。

金子典代(名古屋国立大学)

HIV/エイズの知識

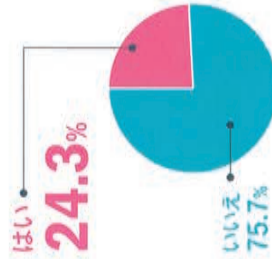
HIV/エイズや一般の 性感染症(性病)に関する 情報についての知識 n=276

HIVの抗体検査を受けるべき
タイミング、性感染症による
HIV感染の可能性の高まりに
関する知識が広がっていない。

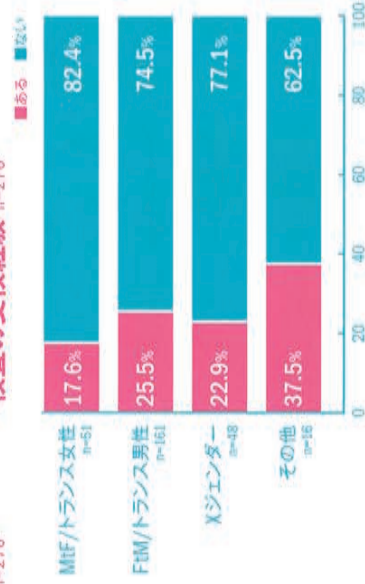


HIV以外の性感染症検査

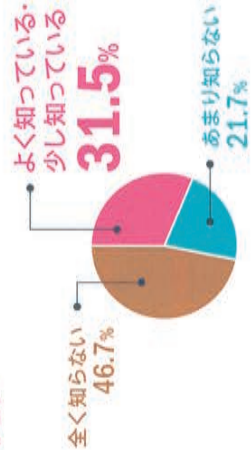
これまでにHIV以外の性感染症の 検査を受けたことがあるか n=276



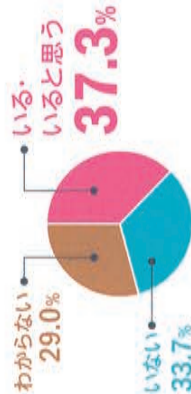
HIV以外の性感染症の 検査の受検経験 n=276



「HIVに感染していても、治療で血液中に HIVが見つかからないレベルの状態(検出 限界以下)が6か月間継続していれば、 セックスで相手に感染させるリスクは 事実上ない」(U=U)を知っているか n=276



友達や知り合いにHIV陽性者 (HIVに感染している人)がいるか n=276

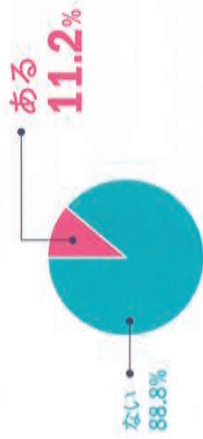


U=Uに関する知識は、全く知らない人が半数近くおり、まだ十分に広がっていない。

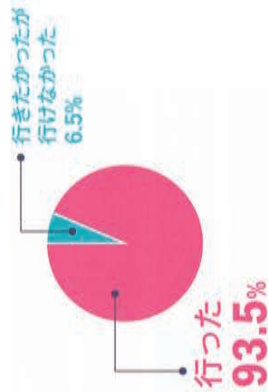
性感染症検査をこれまでに受けたことがある割合は
全体では24.3%であり、FIMが25.5%であった。

性感染症の罹患歴・受診

これまでに性感染症にかかったことがあるか n=276



性感染症に罹患した際、実際に病院に行ったか (性感染症罹患者のみ、n=31)

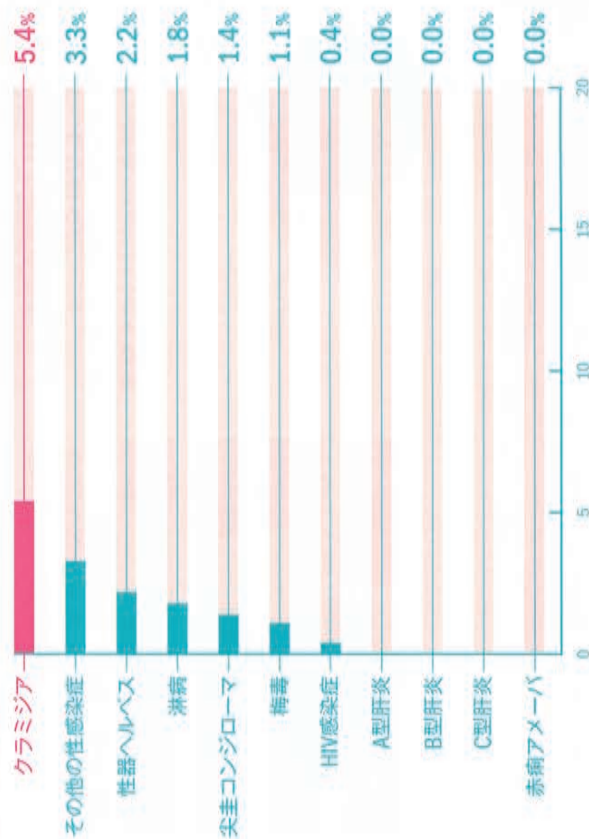


数としては少ないが、行きたかったが行けなかった人が6.5%いることへの注視が必要だろう。

12

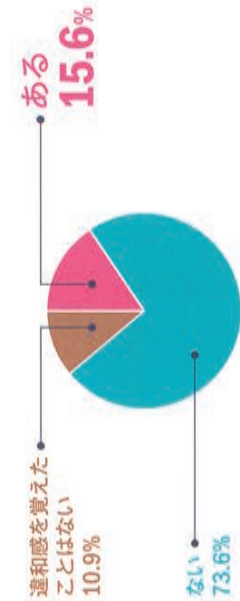
これまでに罹患した性感染症

(複数回答、n=276)



性別違和感と検査や受診の関係

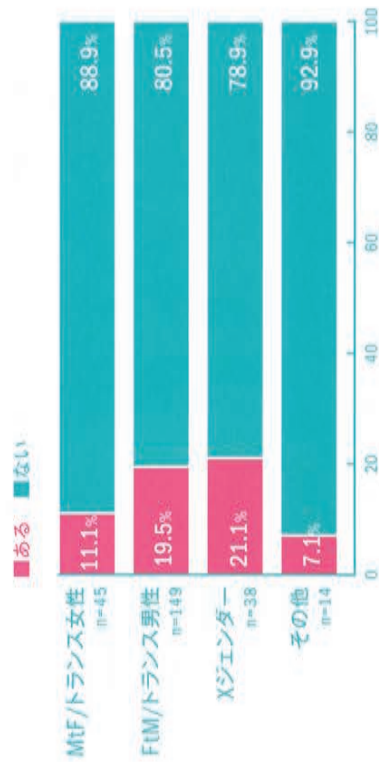
出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、HIV検査に関して、病院や保健所が使いにくくなったことがあるか n=276



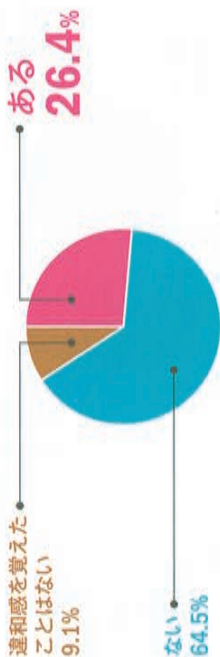
性別違和を覚えてから、病院や保健所が使いにくくなった人が15.6%となっており、病院利用の苦手感から検査機会を逃している人がいることが考えられる。

FIMの方がMtFより使いにくさを感じている人の割合が高かった。

出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、HIV検査に関して、病院や保健所が使いにくくなったことがあるか n=276



出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、性感染症の心配があったときに、病院やクリニックで診察を受けにくくなったことがあるか n=276



性別違和を覚えてから、病院やクリニックを受診しにくくなった人は26.4%であり、HIV検査が使いにくくなった人の割合より高い。

出生時の法的な性別に違和感を覚えるようになってから、性感染症の心配があったときに、病院やクリニックで診察を受けにくくなったことがあるか n=276



*多様な当事者の声身大の声をそのまま掲載しています。

VOICE

「ホルモン投与治療中のFTMゲイ」

1番困った事は避妊具無しでの性行為を迫られた時である。「FTMでホルモンすると妊娠しない。」と浅はかな考えを持つ男性がいる事。未手術の場合、避妊具無しでは妊娠の可能性は0%では無い上に性感染症のリスクもある。自身は交際して3年になる彼氏がおり避妊具無しの膣内射精を行っている。信頼関係が構築された上、互いの個人情報も知っており妊娠しても結婚を了承しているのだ。

N (FTM ゲイ)

VOICE

現在は、落ち着いていますが、3年前まで、寂しさから人脈が恋しくて男性とセックスを繰り返していました。やはり、セーフティなセックスを望んでいるのですが、どうしても男性が興奮したりすると、そのままセックスそしてアナル中への中出ししてしまう人が多く私もつい流されて受け入れてしまうことも多かったです。避妊具血液検査においては、陰性でそれ以降は、セーフティなセックスをしています。やはり、大半の男性が私達女装に対しては、相手のことを考えずしてくるので、こちらで守らなくては行けないと思うのですが、どうしても快楽に負けそうになってしまいます。そこが怖いです。

Y.R.(女装、トランスジェンダー)

COMMENT

トランスジェンダーの中でも、活発な性行動を取る人たちがどういうセックスをしているかは、医療の専門家ですらほとんど知らないということが珍しくありません。たとえば、私が男性とベニスをこすり合わせる性行為のリスクについて相談した時や、無理しなくても男性との逆アナルプレイをすることについて相談した時、医療従事者の方たちはすごく驚かれました。もっと気軽に忌憚なく、医療の専門家にこうした相談が出来るようになればいいなと思っています。

りい、(女装、トランスジェンダー)

性交渉

これまでに性交渉をしたことがあるか n=276

※性交渉とは、自分が思う「性交渉として判断するもの」をさす



過去6か月間に性交渉をしたことがあるか (性交渉経験者のみ n=235)



性交渉経験は85.1%があると回答していた。

過去6か月の性交渉経験は52.8%であった。

金銭授受を伴う性交渉

これまでに相手にお金を払って性交渉をしたことがあるか n=276

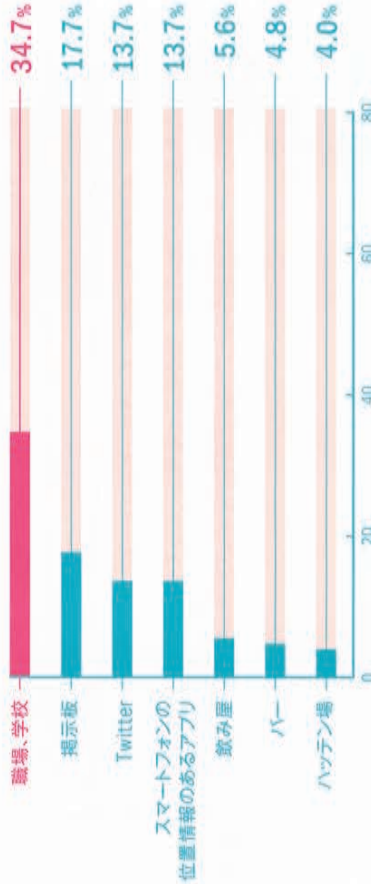


これまでに相手からお金をもらって性交渉をしたことがあるか

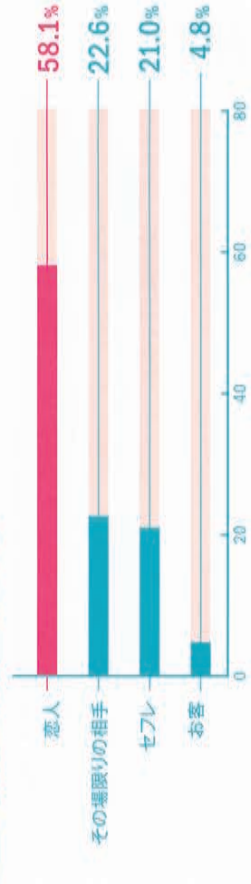


お金を払った性交渉の経験は10.9%、お金をもらったの性交渉経験は14.1%であった。

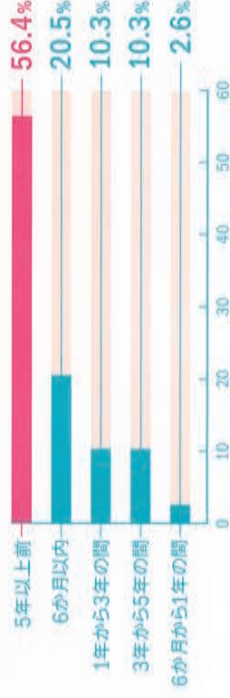
過去6か月間に性交渉をした相手と出会った場所 (複数回答 過去6か月の性交渉経験者のみ n=124)



過去6か月間に性交渉をした相手との関係性 (複数回答 過去6か月の性交渉経験者のみ n=124)



一番最近に相手からお金をもらって性交渉をした時期 (お金をもらった性交渉経験者のみ n=39)



COMMENT

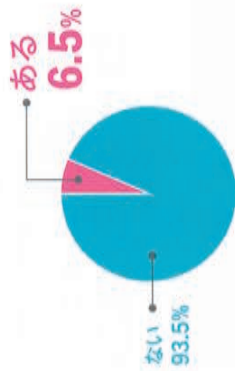
現在、UNAIDSなどでトランス女性がHIV感染に関するハイリスクグループと位置づけられています。これは、トランスジェンダーは社会的な状況からセックスワーカーが多く、STDに関する啓蒙も行き届いていないためと思われます。これらの状況を受け、アメリカではトランスジェンダーに対する検査や啓蒙の強化を行ったり、サンフランシスコではPrEP (HIV治療薬の曝露前予防内服)の無料配布なども行われるなど、色々な形でアクションが起こされています。一方で日本において、トランスジェンダーに対するセクシュアルヘルスの分野は未開拓に近い状況で、トランスジェンダー当事者が性に関する情報にアクセスする場などもインターネットにすら無いのが実態です。日本も例外に運れず多くのトランス女性がセックスワークに従事しており、これらの人々に対する何らかのアクションが早急に必要かと思われます。

畑野とま(トランスジェンダー)

性産業の従事経験

*多様な当事者の毎声大の声をそのまま掲載しています

これまでに性風俗系の仕事をしたことがあるか n=276



性風俗系の仕事の経験があるもの6.5%であった。勤務場所はデリバリーヘルスが55.6%と最も多く、店舗型ヘルスが続いた。

VOICE

「トランスジェンダーのセックスワーカー」

セックスワーカーとして働き感じたのは仕事中に求められる立ち回りがお客様により全然違う。男性的なものを求める人もいれば、女性的なものも求める人。支配欲と被支配欲、人により満たしたいものが違いヒアリング大切。自身は仕事以外でも性的指向は女性でありながら男性とも性交渉を行っていたのでHIVへの意識はいつもほんやりあった。女性とのセックス以上に男性とのそれは軽いものを感じられ、頻度が高かった時期もあったからだ。ふと思えば立ち回りをを受けに行っていたこともある。口の粘りから移る可能性もよぎり怖かった。いつ感染するかわからないか目に見えないからこそ、仕事していた時期は急に不安になったりした。

ゆう (FMM)

あとがき

トランスジェンダー当事者のセクシュアルヘルスについては明らかになっていない点が多い。特に日本では実態調査もなく諸外国より大きく遅れをとっている。

トランスジェンダーはエイズ予防対策においても、対策が必要な集団として明確に位置付けられ、諸外国では、HIV定期検査の受診促進、コンドームや予防行動の推進のためのキャンペーン、予防啓発サイトの充実など様々な対策が取られている。

今回の調査から、我が国でもトランスジェンダーを対象としたより一層の対策の必要性が示された。また、VOICEとして掲載した当事者の体験談からも、HIV・STI予防に関する知識や情報(どのような相手でも感染予防のためにはセーフセックスが重要であるということなど)を広げていく必要性や、性行為に関連して置かれがちな環境の改善の必要性が感じられた。

今後、このベースライン調査の結果をもとに、基礎的知識の普及に取り組み今後効果を検証していく予定である。

編集者一同

性風俗系の仕事をした場所・方法

(複数回答 性風俗系の仕事の経験者のみ) n=18

